

第一輯

治水關係資料第一輯

14.2イ-763



1200701471961

ひめやしやぶし及やしやぶしト砂防植栽成績

農林省山林部



14.21

763



始



14.2イ

763

ひめやしやぶし及やしやぶしハ砂防樹種トシテ明治初年ヨリ各地ニ植栽セラレ、其ノ成績ノ見ルベキモノ尠クナイ、而モ今後此等ノ造林ヲ推奨スベキ所多キヲ以テ、茲ニ其ノ成績ヲ蒐録シ斯業ノ参考ニ資スル次第デア
ル。

昭和八年十月

農林省山林局

目次

前編

ひめやしやぶし

第一 樹名

第二 性状

第三 分布状況

第四 樹苗養成ノ概要

第五 砂防植栽ノ成績

第六 利用状況

一

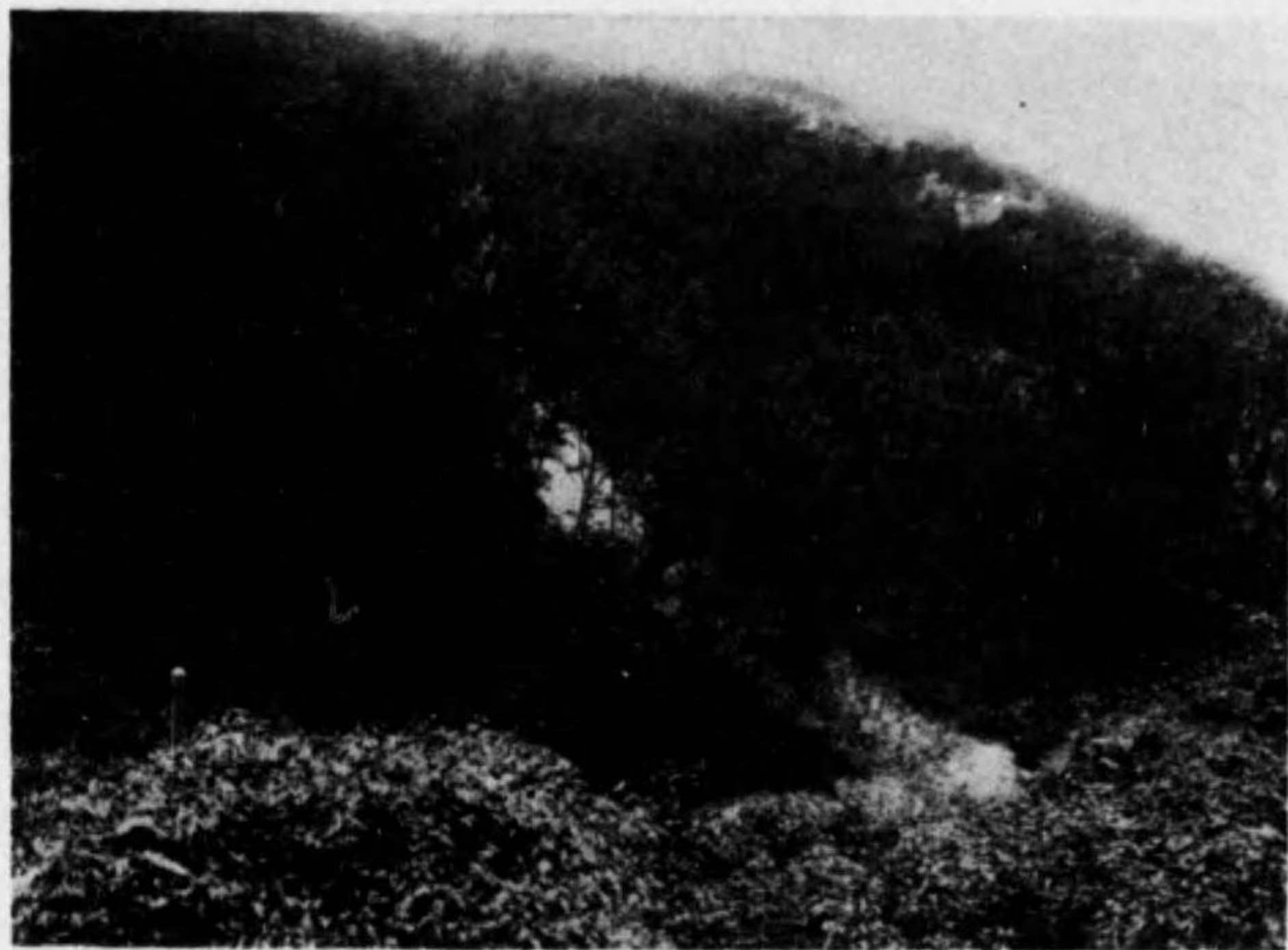
一

二

三

一〇

五四



山形縣北村山郡高崎村大字關山
 地質 第三紀層 面積 0.70ヘクタール、山櫻、やしやぶし混植
 昭和四年植栽（昭和八年六月撮影）



長野縣小縣郡青木村
 地質 第三紀層砂岩、面積 0.54ヘクタール
 大正十三年植栽ひめやしやぶし（昭和八年五月撮影）

目次

第六 利用状況	一〇〇
第五 砂防植栽ノ成績	五九
第四 苗木生産状況	五七
第三 分布状況	五七
第二 性狀	五六
第一 樹名	五五

後編

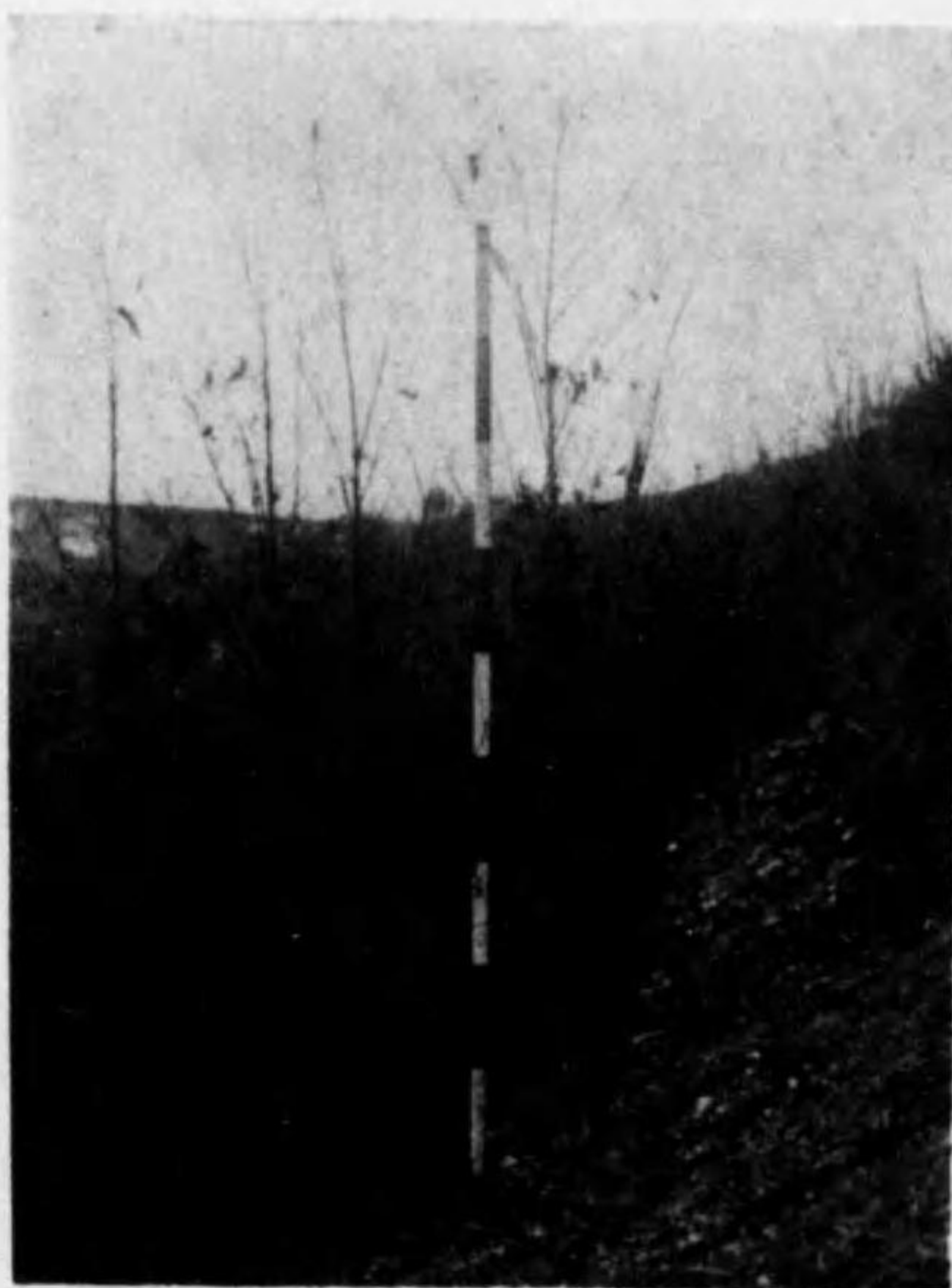
やしやぶし



長野縣下伊那郡三穗村
地質 花崗片麻岩、面積 0.49ヘクタール
大正十四年植栽ひめやしやぶし (昭和八年五月撮影)



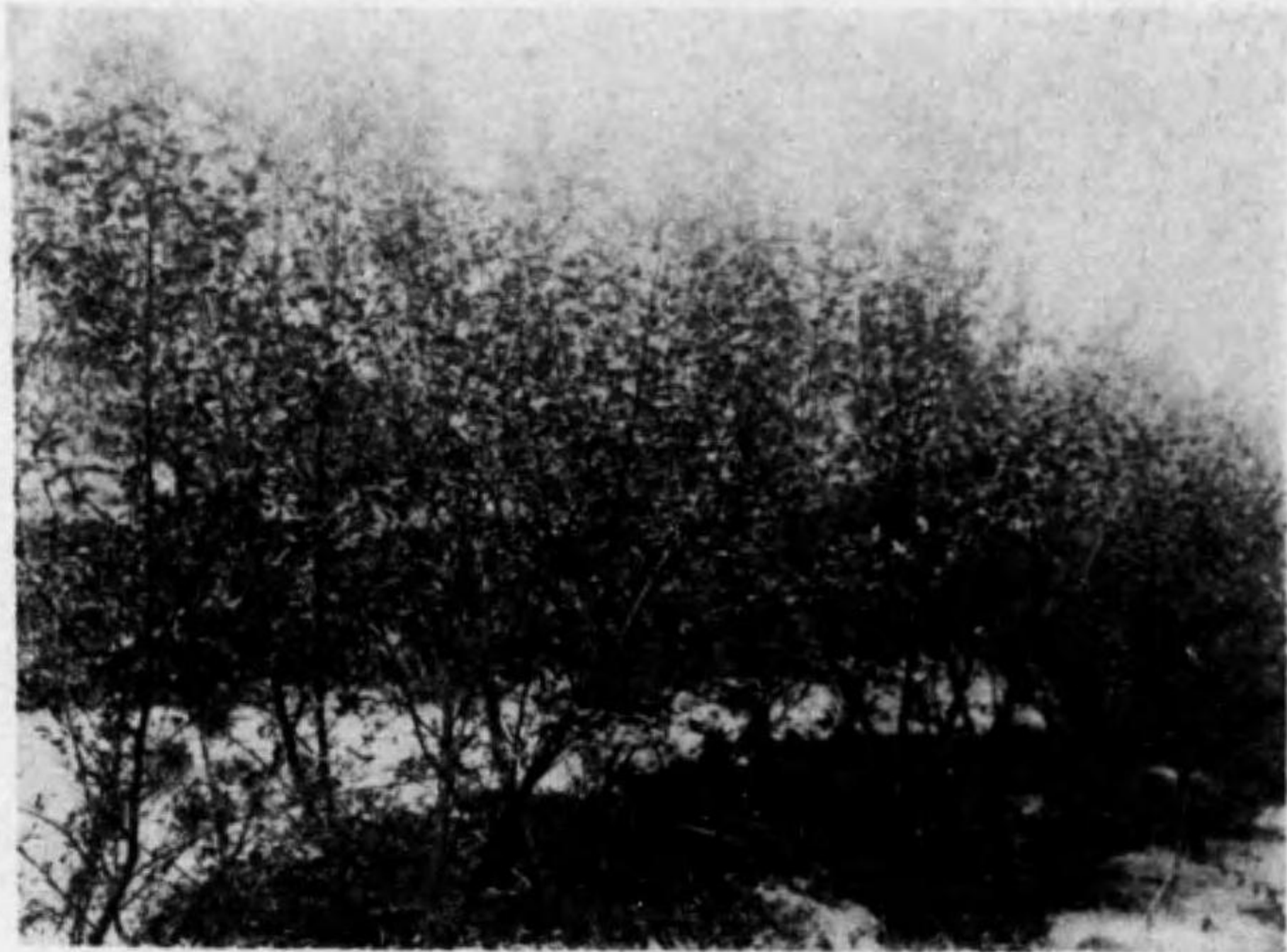
長野縣上伊那郡赤穂村
地質 花崗片麻岩、面積 0.11ヘクタール
大正十三年植栽ひめやしやぶし (昭和八年五月撮影)



→
愛知縣西加茂郡藤岡村大字西中山
地質 第三紀新層
面積 0.20ヘクタール
昭和四年植栽ひめやしやぶし (昭和八年三月撮撮)



←
三重縣三重郡大牟畑村大字重坂
地質 第三紀層 面積 1.00ヘクタール
昭和四年植栽ひめやしやぶし
(昭和八年五月撮影)



滋賀縣神崎郡能登川村大字南須田
地質、花崗岩 面積 0.20ヘクタール
昭和四年植栽ひめやしやぶし (昭和八年五月撮影)



滋賀縣大津營林署牧苗圃
山欖苗養成狀況



→ 滋賀縣甲賀郡岩根村大字岩根
地質 花崗岩
面積 一・〇〇ヘクタール
明治三十九年植栽ひめやしやぶし (明治四十三年撮影)



← 滋賀縣蒲生郡安土村大字下豊浦
地質 石英斑岩
面積 〇・八五ヘクタール
大正十三年植栽ひめやしやぶし (昭和八年五月撮影)



和歌山縣有田郡藤並村大字奥
地質、砂岩、面積 16.88ヘクタール
大正六年ヨリ十二年迄ニ植栽ひめやしやぶし (昭和八年三月撮影)



鳥取縣氣高郡末恒村大字伏野字芳谷ノ一
地質、第三紀層、面積0.2ヘクタール
大正十三年植栽ひめやしやぶし (昭和八年五月撮影)



京都府南桑田郡菟田野村大字佐伯
地質、秩父古生層、面積 0.56ヘクタール
大正十二年 植栽ひめやしやぶし (昭和八年五月撮影)



京都府船井郡園部町字黒田
地質、秩父古生層、面積 0.54ヘクタール
大正十四年植栽ひめやしやぶし (昭和八年五月撮影)



岡山縣和氣郡英保村大字南方
地質、石英粗面岩、面積 1.53ヘクタール
大正十四年植栽ひめやしやぶし (昭和八年五月撮影)



廣嶋縣豊田郡小泉村字才田
地質、花崗岩、面積 6.94ヘクタール
大正十四年植栽ひめやしやぶし (昭和五年五月撮影)



→ 島根縣簸川郡古志村
地質 第三紀層
面積 二・四〇ヘクタール
大正六年植栽ひめやしやぶし (昭和八年五月撮影)



← 島根縣簸川郡布智村
地質 第三紀層
面積 三・〇〇ヘクタール
大正五年植栽ひめやしやぶし (昭和八年五月撮影)



香川県綾歌郡西分村字東開
地質、花崗岩、面積1.00ヘクタール
大正十三年植栽ひめやしやぶし（昭和八年五月撮影）



愛媛縣越智郡宮浦村大字宮浦
地質、花崗岩、面積2.11ヘクタール
大正三年植栽ひめやしやぶし（昭和八年一月撮影）



山口縣吉數郡小鯖村大字下小鯖字尾曾越
地質、花崗岩、面積0.63ヘクタール
昭和五年やしやぶし 山稜ト混植地（昭和八年五月撮影）



徳嶋縣三好郡三野町大字芝生
地質、和泉砂岩、面積1.00ヘクタール
大正十三年植栽ひめやしやぶし（昭和八年五月撮影）



鹿兒島縣日置郡田布施村草原町國有林
海岸砂地、面積 1.30ヘクタール
やしやぶし、ひめやしやぶし、にせあかしあ 等混植地
大正十四年植栽（昭和八年一月撮影）



滋賀縣甲賀郡岩根村大字菩提寺
地質 花崗岩、本ヶ所ハ日露戰役中砂防事業繰延トナリタル爲
多數不用ノひめやしやぶし苗ヲ生ジタルバ之ヲ附近ノ荒廢林
地ニ植栽シタモノデ 明治三十八年ノ植栽テアル



→
高知縣幡多郡三崎村大字三崎
地質 頁岩及砂岩
面積、一・四八ヘクタール
大正十五年植栽ひめやしやぶし
（昭和八年六月撮影）



←
奈良縣吉野郡中龍門村大字小名字クデ山
地質、片麻岩
面積 一・三三ヘクタール
大正十五年植栽ひめやしやぶし
（昭和八年六月撮影）



朝鮮忠清南道燕岐郡西面東里
面積 0.50ヘクタール昭和三年植栽ひめやしやぶし
(昭和八年五月撮影)



昭和六年滋賀縣ニ於テ實施セル山橙栽培肥料別試験ノ成績



→
福島縣伊達郡柱澤村大字柱田
地質花崗片麻岩、面積一・九四ヘクタール
昭和三年植栽やしやぶし
(昭和八年五月撮影)



←
栃木縣那須郡高林村大字板室
地質砂岩及粘板岩面積〇・四五ヘクタール
昭和四年植栽やしやぶし
(昭和八年五月撮影)



京都府竹野郡郷村字生野内
地質 花崗岩、面積 0.82ヘクタール 昭和四年植栽
やしやぶし (昭和八年五月撮影)



石川縣羽咋郡西増穂村酒見
地質 凝灰岩、面積 1.57ヘクタール 大正十四年植栽
やしやぶし (昭和八年一月撮影)



和歌山縣有田郡藤並村大字奥
地質 砂岩、總面積 16.88ヘクタールノ内一部分 大正六年植栽
やしやぶし (昭和八年三月撮影)



←
岐阜縣土岐郡明世村大字戸狩
地質 第三紀砂礫層、面積二・八〇ヘクタール
大正七年植栽 やしやぶし及山桜等混植
(昭和八年一月撮影)



山口縣吉敷郡秋穂二島村字東大河内
地質 花崗岩、面積 2.43ヘクタール大正十一年植栽
やしやぶし (昭和八年五月撮影)



廣嶋縣豊田郡本郷町
やしやぶし苗圃



→
鳥取縣岩美郡田後村綱代坂通
地質 花崗岩、面積 〇・三〇ヘクタール
大正十二年植栽 やしやぶし (昭和八年五月撮影)



←
島根縣簸川郡布智村
地質 第三紀層 頁岩、面積 三・〇〇ヘクタール
大正六年植栽 やしやぶし (昭和八年五月撮影)



香川県大川郡譽水村大字水主字南笠松
地質 花崗岩、面積 2.30ヘクタール 大正十五年植栽
やしやぶし (昭和八年五月撮影)



愛媛縣越智郡宮浦村大字宮浦
地質 花崗岩、面積 2.11ヘクタール 大正三年植栽
やしやぶし及ひめやしやぶし混植 (昭和八年一月撮影)



→ 徳嶋縣板野郡御所村大字宮川内
地質 和泉砂岩、面積 一・四〇ヘクタール
大正十二年植栽 やしやぶし
(昭和八年五月撮影)



← 高知縣幡多郡下川口村大字宗呂
地質 頁岩及砂岩、面積 〇・九二ヘクタール
大正十四年植栽 やしやぶし
(昭和八年五月撮影)



一 大分縣日田郡高瀬村大字高瀬
地質火山灰砂、面積〇・八三ヘクタール
大正十三年植栽 やしやぶし
(昭和八年五月撮影)



熊本縣阿蘇郡坂梨村大字坂梨字園字上
地質火山灰砂、面積〇・二六ヘクタール
昭和二年植栽 やしやぶし
(昭和八年五月撮影)

ひめやしやぶし及やしやぶしト砂防植栽成績

前編 ひめやしやぶし

第一樹名

ひめやしやぶしハ樺木科はんのき屬ニシテ學名 *Alnus firma* S. et Z. var. *multinervis* Regel ト云ヒ、漢名ニハ山榿、榿、
 禿榿等ト書クモ山榿ガ最モ普通デアアル。又地方ニヨリ左記ノ如ク幾多ノ方言アルモ、はげしぱりノ名ハ最モ一般的デアアル。
 ハゲシバリ、秋田縣(南秋田郡)、東京府(郡部)、愛媛縣(東豫地方)、大分縣(玖珠郡)、京都、大阪、兵庫、岡山、廣島、山
 口、島根、鳥取、福井、静岡、富山、石川、滋賀、岐阜、愛知、三重、和歌山、奈良、高知、熊本ノ各府縣。ツチシバリ、
 京都府丹波地方)、大阪府(攝津地方)、兵庫縣(攝津地方)、廣島縣。ヤマシバリ、福井縣。ミネバリ、石川縣、静岡縣(遠
 江地方)。マシバ、岩手縣(岩手郡)、秋田縣。イハハゲ、青森縣(上北郡)。ヒラナラシ、青森縣、岩手縣。ユハシバ、青森縣
 (南津輕郡)。イハシバリ、秋田縣(南秋田郡)。イワシバ、秋田縣(雄勝郡)。ユワバ、山形縣。メボツ、コバリ、福井縣(越
 前地方)。マルバヤナギ、岡山縣(備前、備中地方)。ヂシバ、秋田縣。フシノキ、埼玉縣。ミネバリ、長野縣(木曾地方)、
 静岡縣(遠江地方)、石川縣。ヤシヤ、静岡縣(伊豆、遠江地方)。ハゲラカクシ、ヤナシデ、鳥取縣。ジャリシバリ、徳島
 縣。ハゲ、愛媛縣(東豫地方)。ハクサンミネバリ、石川縣(加賀地方)。ヤシヤブシ、北海道。サウバリ、熊本縣。

第二性狀

ひめやしやぶしハ暖帯ヨリ温帯ノ各地ノ山野ニ自生スルガ、亦崩壊裸出セル乾燥瘠惡ノ地ニモ能ク繁茂スル落葉樹デアル。葉ハ互生長卵形ニシテやしやぶしヨリモ細長先端尖リ脈絡太ク現レ側脈數多ク、十三雙以上二十七雙ニ及ビ、表面著シク凹陥シテ大鋸齒頭ニ直走シテ居ル。葉柄短カク托葉ハ顯著ニシテ往々永ク存スルモノガアル。花ハ雌雄ニ家花ニシテ形能クはんのきニ類似シ、雄花ハ四月上旬葉ニ先立ツテ開キ、雌花ハ其枝梢ニ花粉ヲ受ケ十月中旬ニ至ツテ熟スル、實ハ多數塊マリテ球果狀ヲナシ楕圓形、長サ三四分幅二三分(〇・九乃至一・二種)種鱗ハ扇形内面ニ四隆線ガアル。翅果ハ蒼白色ヲ呈シ種子ハ楕圓形又ハ卵形ニシテ長サ一分(〇・三種)内外、胚乳ハ極メテ少サク、翅ハ基部狭クシテ上方ニ廣ガツテ居ル、而シテ種子一升ノ重量ハ八十匁乃至九十匁(〇・三乃至〇・三四冠)、粒數約四十萬、球果一升ヨリ一合三勺(〇・二三立)ノ種子ガ得ラル。根ハ直根ニ乏シク側根非常ニ發生シテ四方ニ擴ガリ、地表ニ沿ツテ遠ク數間ニ達スル、細根ハ密生寄合シテ網狀ヲナシ能ク岩石ヲ被ヒ又ハ其ノ裂目ニ侵入シテ土地ヲ安定スル效ガアル、故ニはげしぱり、がけしぱり、つちしぱり又ハやましばり等トモ言ハル、ノデアル。而シテ其細根ノ所々ニ扁平ナル疣狀物ヲ附ケ甚キハ相集テ直徑五分餘(一・五種)ノ球形ヲナス事アルモ、此疣狀物ハ空氣中ノ遊離窒素ヲ吸收消化シ以テ樹體ニ供給スル細菌(根粒バクテリア)ノ居室トモ言ハル、モノデアル。幹ハ直立セズ多クハ灌木狀ヲナスガ、稀ニ樹高二十五尺(七・六米)、目通直徑七八寸(二一乃至二四種)ニ達スルモノモアル。年々多數ノ細長ナル枝條ヲ生ズルガ、枝ハ凡ソ三十度ノ角度ヲ以テ幹部ヨリ互生シ、鬱閉密ニ過グレ下部ノ枝葉ハ枯落スル、而モ萌芽力甚ダ強ク植栽後四、五年ニシテ主幹ヲ認メ難キ程萌芽シ、一株ヨリヨク十數本ヲ出スモノガアル。樹皮ハ黑褐色ニシテ點々縱裂ヲ有シテ居ル。

第三 分布狀況

ひめやしやぶしハ暖帯ヨリ温帯ニ亘リ各地方ノ山野ニ分布セルモ殊ニ暖帯地方ニ多イ、古來加賀ノ白山ニ自生スルヨリ一名白山みねばりトモ稱セラル。此樹ハ砂防植栽用トシテ最モ廣ク造林セラレ、青森、岩手、秋田、長崎、沖繩ノ諸縣ヲ除キ、各府縣ノ植栽數量頗多ク、就中廣島、愛知、滋賀及山口(何レモ最近一ケ年平均五十萬以上植栽)ノ各縣ヲ筆頭トシ、香川、愛媛、兵庫、岡山、京都(最近一ケ年平均十萬以上五〇萬以下)ノ各府縣之ニ次ギ、岐阜、福岡、長野、佐賀、石川、鳥取、奈良、千葉、山形、新潟、山梨及徳島等ノ各縣ニ於テモ相當量ニ及ンデ居ル。而シテ其植栽狀況ヲ見ルニ中國、近畿及四國地方ノ花崗岩、和泉砂岩、第三紀層等禿裸地多キ地方ニ最モ廣ク分布シテ成績モ良好デアル、其他、九州、關東、北陸及東北等ニ於テハ其分布比較的粗ニシテ、面積モ廣クハナイ。

朝鮮ニ於ケル此樹ノ造林ハ最近漸ク其緒ニ就キタルモ、成績ノ見ルベキモノ未ダ多カラズ、慶尙北道、慶尙南道、全羅南道及全羅北道等ノ各地ニ散在シ、尙ホ忠清南道及京畿道等ニモ少面積ノ植栽ガアル、然レドモ京畿道以北ニ於テハ氣候ノ關係上造林困難デアル。

第四 樹苗養成ノ概要

ひめやしやぶし苗ノ需要ハ年々増加ノ趨勢ニアツテ、各地ニ於テ之ガ養成ヲ行ヒ、亦近年朝鮮ニ於テモ之ガ養苗ヲ爲スニ至ツタ、而シテ現在最モ養苗ノ盛ナルハ滋賀縣甲賀郡地方ニシテ既ニ明治初年ヨリ養苗ニ着手シ本邦生産苗數ノ大半ヲ占ムル盛況ヲ呈シ、次デ廣島、香川等ニ於テモ盛ンデアルガ、今主トシテ滋賀縣地方ニ於ケル養苗法ニ準據シテ其大要ヲ記述シヤウ。

(一) 種子、種子ハ熱期至レバ穂果自然ニ綻裂スルガ故ニ其時期ヲ失セズ十月中旬成ルベク大粒ノモノヲ選ビテ採取シ蔭乾トナシ、能ク乾燥セルモノヲ俵ニ入レ室内ニ吊リ置キ、十二月ニ至ラバ鱗片開キ種子ヲ放出スルガ故ニ之ヲ篩ヒ出シ、尙ホ出

テザルモノアル時ハ二三日間乾燥セシメテ再ビ篩ヒ出スノデアル、其出タルモノハ米篩ニテ篩ヒ穢果ノ殘滓混ズルモノヲ漏出セシメテヨク精選シ、紙袋或ハ桶等ニ入レテ濕氣ナク空氣ノ流通ヨキ所ニ貯藏スルノデアル。普通一升（一・八立）ノ種子ヲ得ルニハ穢果七、八升（二・七乃至一四・四立）ヲ要スル、而シテ一升ノ重量ハ八、九十匁（〇・三乃至〇・三四匁）粒數凡ソ四十萬内外デアル。

(二) 圃地及地持、苗圃地トシテハ日當通風能ク、肥沃ナル砂質壤土ノ水田ニシテ灌溉、排水共ニ便利ナル所ヲヨシトス、而シテ連作作付ハ成績最不良ニ付絕對ニ避クルヲ常トスル。苗圃地ノ選定終ラバ冬季ヨリ土壤ヲ耕耘シテ膨軟ニシ、雨霜ニ曝スト共ニ、根切蟲、オケラ等ノ害蟲驅除豫防ニ努メネバナラヌ、之レ表土ニ近キ害蟲ハ寒氣ノ爲凍死シ驅除ノ効果大ナルガ故デアル。床幅ハ三尺（〇・九米）長サハ其田ノ形狀ニ應ジ床ト床トノ間隔ハ一尺五寸（四五匁）乃至二尺（六〇匁）トシ、其部分ノ土壤ヲ左右ノ床ニ掘リ上ゲ深サ五寸乃至八寸ノ溝ヲ作り排水ノ便ニスル、而シテ床土ハ十分粉碎シテ床面ハ凹凸傾斜ナキ様平カニ均シ平板ニテ輕ク叩キ固ムルノデアル。

(三) 施肥、施肥ハ基肥トシテ播種一ヶ月前ニ行フガ、其種類ハ骨粉、干餅ノ粕等ヲ用ヒ、之ヲ十分乾燥シテ粉末トシ一坪ニ付百匁乃至二百匁ノ割ヲ以テ床面一様ニ撒布シ、能ク土壤ヲ攪拌混和スル又發芽後生長促進ノ爲メ十五倍ノ水ニ稀釋セル人糞尿或ハ其他薄キ液肥ヲ用キテ居ル。

(四) 播種、播種期ハ四月上旬乃至五月上旬デ既ニ施肥セラレタル床面ニ下種量一坪ニ付キ六匁乃至一合ノ割合ニ撒播スルノデアルガ、（一般ニハ一合播トスルガ多イ）種子ノ一ヶ所ニ重ナラザル様注意シテ一様ニ播種シ、一床ノ播種終ラバ畝裏ニテ輕ク種子ヲ壓シ付ケ、穀殼ヲ見エ隠レノ程度ニ薄ク振り掛ケ、其上ニ藁ヲ一本並ビニ覆ヒ一床ニ二條ノ繩ヲ張り竹串ニテ壓シ付ケ置クノデアル。

(五) 手入保護、播種後二十日乃至二十五日ニシテ發芽スルヲ以テ、發芽セバ覆藁ヲ除去スルノデアルガ、其時期ヲ失センカ十分良ク發育セル幼苗ヲモ損傷シ、又ハ纖弱トナル爲發芽時期ニハ常ニ其狀況ニ注意シ、六七割發生セル頃ヲ見計ヒ叮嚀ニ除去スルノデアル。然ル後竹箒又ハ葎箒ヲ以テ日覆ヲ爲スガ、日覆ハ初メ高サ五寸（一五匁）内外トシ苗木ノ生長スルニ從ヒ更ニ高クスル必要アルモ其煩ヲ避クル爲適當ノ高サニ固定スルガ普通デアル、而シテ秋ノ彼岸ニ至リテ之ヲ取り去ル。箒ハ床幅ヨリ稍廣クシ日光殊ニ夕陽ヲ避クルガ如ク床上ニ斜ニ被ヒ兼テ雨水ヲ床地外ニ流下スルニ便ナラシメテ居ル。

次ニ除草ハ此苗木養成上成敗ノ分ル、所ナレバ常ニ細心ノ注意ヲ拂ヒ、必ズ小サキ内ニ屢々之ヲ行ヒ少ナクモ春ヨリ秋迄六七回行ハネバナラヌ。

苗圃ハ苗木ノ生長期間中常ニ適度ノ水分ヲ要スルモ、霖雨ノ時ハ種子腐敗シ易キ故排水設備ヲナシ、又旱魃ノ際樹苗ノ生育ニ必要ナル水分ノ不足ヲ訴フルニ至レバ日没後床ノ間ニ設ケタル溝ニ灌水シ十分濕氣ノ床地ニ行渡レバ直ニ排水スルノデアル。尙ホ苗木ハ幼少ノ時ヨリ葉ノ重ナリ合フ事無キ様間斷ナク間引ヲナス要ガアル、其程度ハ十月末ニ於テ一坪四、五百本ヲ適當トスル。次ニ夏季ハ根切蟲ノ害ニカ、ル事多キヲ以テ煤ヲ撒布シタル後蟲害區域ニ灌水ヲ行ヒ、成蟲ハ捕殺シ、又菌害トシテハ「ベト」病ニ罹ル事多イ、之レハ未ダ苗木ノ小ナル内葉次第ニ腐爛シ遂ニ枯死スルモノデ、當地方ニテハ之ヲ「ボロ」病或ハ「ベタイモチ病」ト稱シテ居ル、尙「イモチ病」(俗ニ「ホシイモチ」ト稱シセブトリヤ菌ノ寄生ニヨルモノ)ト稱シ、葉面ニ無數ノ黃褐色ノ斑點ヲ生ジテ、次第ニ病勢進ムトキハ生長ヲ止メ遂ニ枯死スルニ至ルモノガアル。之等病害ノ豫防驅除ニハ五月ヨリ八月中ニ三年式「ボルドー」合劑ヲ撒布スレバヨイ。

以上ノ如クニシテ一年生ヲ以テ山出苗トスルガ、山地移植ニハ翌春二月下旬苗木ヨリ掘リ取り畦ニ條溝ヲ設ケテ斜ニ並列シテ假植シ置クノデアル、而シテ普通一升ノ種子ヨリ六、七千本ノ山行苗ガ得ラル。

次ニ香川縣ニ於テハ縣直營ヲ以テ山樅苗ノ養成ヲナシタルガ、山行苗一萬本生産ニ要スル經費ヲ掲ゲ參考ニ供スル。
 一、壹萬本生産ニ要スル面積及坪代

一坪當リ山行苗 生産本數	苗圃面積		計	地代	總計	摘要
	苗圃	附屬地				
四〇〇本	二五坪	一七坪	四二坪	一坪代	七六八〇	貸貸料一反に付玄米二石二斗一石ニ付二十五圓ノ割

二、同上人夫賃

種別	人夫別	數量	單價	金額	摘要
地拵	男	二人	八〇〇	一六〇〇	一人一日十五坪
播種	男	一二五	八〇〇	一〇〇〇〇	二十坪
日覆取扱	同	一〇〇	八〇〇	八〇〇〇	四十坪
藥品撒布	同	四〇〇	三二〇〇	一、二八〇〇	九十坪ホルド一五圓ヒサンイン三圓
苗木掘取	同	一二五	一〇〇〇	一、二五〇〇	八千本
荷造	同	〇七〇	同	五、六〇〇	二千本八七圓

三、同上材料費

種別	數量	單價	金額	摘要
間引除草	女	一〇〇〇	五〇〇	三十坪十二回
選苗	同	二〇〇	一〇〇〇	五千本
計			一、四八〇〇	

種別	數量	單價	金額	摘要
種子	二升 二五枚	四〇〇	一〇〇〇	一坪一合ノ割播種
日覆菫	二五枚	〇七〇	一七五〇	一坪一枚
杭	一〇〇本	〇二〇	二〇〇〇	同 四本四ヶ年使用ノ見込
亞鉛引 十八番鐵線	〇、六二五 貫	一、二〇〇	七〇〇	同 二十五及三ヶ年使用ノ見込
稻藥	一二、五〇	〇五〇	六二〇	同 五百匁
繩	七、五〇	二〇〇	一五〇〇	荷造日覆用
荷造菫	五枚	〇六〇	三〇〇	二千本ニ付一枚

消石灰	六、七五	〇、八〇	五四〇	一坪二付二百七十匁
米	〇、三〇	二〇〇〇	六〇〇	一坪一升二合
綿實粕	四、四〇	一七〇	七五〇	同 百七十六匁
過燐酸石灰	二、七五	一五〇	四一〇	同 百十匁
硫酸銅	〇、八七五	一、二〇〇	一〇五〇	同 七匁五分病菌驅除用
生石灰	〇、八七五	一、二〇	一〇〇	同 同
硫酸鉛	六〇〇	二〇〇	一、二〇〇	一坪八匁三分
計		一二五七〇		
總計			三四〇五〇	

以上ノ如ク苗木代一本當三厘四毛ニ當ツテ居ル。
 昭和八年春季ニ於ケルひめやしやぶし苗ノ生産狀況ハ、實ニ一千萬本以上ニ達シ民間ノミニテモ八百餘萬本デアアル。而モ滋賀八四百萬本ヲ出シテ其半ヲ占メ、廣島ノ百二十萬本、香川九十三萬本、京都五十七萬本及愛知ノ五十五萬本等之ニ次ギ、兵庫、愛媛、山口ノ各縣何レモ二十萬本ヲ出シ、更ニ鳥取、岡山、石川等ノ各縣ニ於テモ相當產出ガアル。

今近年ニ於ケル需給狀況ヲ示セバ次ノ通デアル。

地方數量	各府縣	各營林局	昭和五年		昭和六年	
			生産數	需要數	移出數	移入數
計			二、七九、三三三	九、四六、八八七	六、〇〇三、〇〇〇	二、六六六、五五五
			五、六五、七〇〇	三、六二、一八七	一、〇〇〇、〇〇〇	三、六六六、五五五
			六、一三、六三三	六、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	七、八九、八五二
						四、三三、九〇〇
						二、九〇、九〇〇
						一、〇〇〇、〇〇〇
						一、五九三、八一

地方數量	各府縣	各營林局	昭和七年		昭和八年(見込)	
			生産數	需要數	移出數	移入數
計			一、二二八、八六〇	六、六七、九三三	一、三三六、七五二	六、八八九、五六三
			三、一六、〇〇〇	二、四七、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
			八〇五、八九〇	五、一五、九三三	三、二六、〇〇〇	三、九三、六六三
					一、四〇、〇三三	五、〇七、〇〇〇
						二、九〇、九〇〇
						一、〇〇〇、〇〇〇
						一、九七、三〇〇

注意 各營林局生産數ニハ民間ノ生産ヲ含マズ

朝鮮ニ於テハ近時養苗ノ發達ト共ニ、ひめやしやぶし苗ノ生産モ頗ル多クナツテ來タ、昭和六年ニハ實ニ四百萬本ノ生産ヲナシ、忠清南道最モ多ク二百餘萬本ヲ出シ、全羅北道ノ百三十萬本之ニ次ギ、尙ホ慶尙南道及慶尙北道等ニモ三四十萬本ヲ生

産シテ居ル。

ひめやしやぶしトやしやぶしトハ相似タルニヨリ往々混同セラル、事ガアル、依ツテ其識別點ニツキ記載シテ見ヤウ。

ひめやしやぶし

- 一、樹皮ハヤ、滑ニシテ暗褐色ヲ呈スル。
- 二、新芽ハ赤色ノ鱗片ヲ以テ密ニ被覆サレテ居ル。

三、春季若葉ヲ出スコト遅イ。

四、葉ハやしやぶしヨリ細長ク、先端尖リ、側脈數多ク十三

乃至二十七雙ニ及ブ。

五、樹容細長ク稍纖細ノ感アリ女性的デアアル、故ニひめやし
ヤト云ハル、所以。

六、植栽後ハ萌芽力強ク多數ノ萌芽ヲ出シ、灌木狀ヲ呈スル

七、根ニハ多數ノ細根ヲ有スル。

八、毬果ハ小ニシテ數多イ。

九、毬果ハ花梗長クシテ垂下スル。

やしやぶし

- 一、灰褐色ニシテ稍青味ヲ帶ビ粗造且ツ光澤ガ無イ。
- 二、新芽ハ灰色又ハ淡青色ノ鱗片ニテ稍粗ク被覆シ、少シク丸味ヲ帶ブ。

三、若葉ヲ出スコト早シ。

四、葉ノ基部丸味ヲ帶ビ、側脈ハ普通十五六雙デアアル。

五、稍肥大ニシテ男性的デアアル、サレバ一名鬼やしヤトモ言
ハル。

六、萌芽力ひめやしヨリ弱ク、稍喬木性デアアル。

七、細根比較的少ナイ。

八、大ニシテ數少ナイ。

九、花梗短カキ故横向又ハ上向トナル。

第五 砂防植栽ノ成績

荒廢林復舊工事地（各府縣）、砂防植栽及砂防設備地（各營林局）等ニ於ケルひめやしやぶしノ植栽成績ニ就テ之レヲ見ルニ
本書掲載事例總計四十五ヶ所其面積一九一・二五ヘクタールデ、之ヲ全國ニ施工セル總面積ニ比スレバ至ツテ寥寥タルモノデ
之ヲ以テ一概ニ論ズル事ハ出來ナイガ、地質其他ノ關係ニヨリ稍成績ノ劣レルモノノ數例ヲ除キ何レモ成績良好ニシテ能ク砂
防植栽ノ目的ヲ達シテ居ル。今便宜上成績ノ良否ニ別ツテ大要ヲ記述シテ見ヤウ。

成績良好ナルモノニ就テ見ルニ海拔最高キハ四七〇米（奈良）ヲ首トシ、四六〇米（山口）之ニ次ギ、最低三米（宮城）、平均
二二八米比較的的低キ所ニ於テ良好ナルガ如クデアアル、又地質上ヨリ見ル時ハ其半數ハ花崗岩ヲ基岩トシ、植栽面積ハ五七・〇
〇（陌（滋賀）ヲ最大トシ最小〇・三〇陌平均四・六七陌で總數ノ七割ハ二陌以下ノモノデアアル。更ニ樹齡ハ二十九年生（滋賀）ヲ最
老トシ、最モ若キハ二年生（宮城）デ、平均十一年ニ過ギヌ、而モ其七割ハ十年生以下ノモノデ、二十年生以上ハ僅カニ三ヶ所
ヲ數フルニ過ギナイガ、斯クノ如キハ施工後未ダ幾年ヲモ經過セザル爲メデアアル。

一陌當植栽本數ハ各府縣ニ於テ地質ニヨリ或ハ混交林單純林等ニヨリ一定シ居ラザルモ、千六百本（岐阜、混植）ヲ最少ト
シ、最モ密植セルハ一萬四千四百餘本デ（滋賀、純林）、混交林トシテモ、本樹ノミ九千本乃至一萬本（滋賀）植栽セルモアル。
而シテ混植セル樹種ハ黒松、赤松、やしやぶし、やまはんのき、にせあかしあ等デアアルガ黒松最モ多ク總數ノ約四割ヲ占メテ
居ル。尙植栽ノ割合ハ山楡一本ニ對シ他樹種一本、若クハ山楡二本ニ對シ一本ノ割合トセルモノ比較的の多ク、又現在本數ハ混
交ノ割合及其後ノ生育狀況等ニヨリ差アルモ、最モ多キハ一萬五百本（滋賀、植付數ニ對スル割合七五%）ニシテ最小千百本
（岐阜、六九%）平均四千六百餘本七三%ニ當リ平均樹齡十一年生トシテハ其成績良好デアアル、而モ植付數ニ對スル現在本數ノ
割合八〇%以上ノモノハ總數ノ五割以上ヲ占メテ居ル。

荒廢復舊工事施行地ハ地味瘠惡ナル場合多キ爲メ、苗木ノ植栽ニ當ツテ基肥ヲ施シ、或ハ追肥ヲナス等肥料ヲ施ス場合ガ多

ク、總數ノ八割五分ニ達シテ居ル。而シテ肥料ノ種類ハ藁、草木灰、過磷酸石灰、豆粕、油粕、鶏糞及完全肥料等各種デアルガ、藁ヲ施セルモノ半數ヲ占メ、草木灰及過磷酸等ノ順序デアル、又施肥量ハ各府縣各異ツテ居ルガ、藁ハ一本當平均四六〇グラム、草木灰ハ四八グラムニ當リ、各種總平均一七七グラムニ當ツテ居ル。而シテ藁ハ一面濕氣ヲ保有セシムルト共ニ腐敗シテ肥料トナルガ故施用スルモノ多イノデアル。

次ニ生長狀況ヲ見ルニ直徑(胸高)ニ於テ八九〇糎(佐賀、愛媛)ヲ最大トシ〇・六糎(岐阜)ヲ最小トシ平均三・一六糎ニ達シ、高サニ於テ最大七・〇米(愛媛)最小〇・七米(京都)平均三・五九米ニ達シ一般ニ成績良好デアル。

成績不良ナルモノノ事例ニ就テ之ヲ見ルニ、海拔七二〇米(滋賀)ノ最高トシ、最低六〇米(愛知)平均二二八米デ地質ハ花崗岩ヲ基岩トセルモノ半數ヲ占メテ居ル。植栽面積ハ最大一〇陌(和歌山)最小〇・三〇陌(滋賀)平均二・七二陌ニ當リ二陌以下ノ小面積ノモノ半數ニ達スル。樹齡ハ最小四年生(岐阜)ヨリ二十三年(愛知)平均十二年生ニシテ十年生以下モ三ヶ所ヲ數ヘ、一般ニ幼齡デアル。植付本數ハ一陌當一萬五千本(滋賀)ヲ最モ密トシ、粗ナルモノ二千二百本(愛媛、混植地)、平均四千五百八十本デ、之ヲ成績ノ良好ナルモノニ比スレバ割合ニ粗植デアル、尙ホ現在本數ハ四千五百本(滋賀)ヲ最大トシ僅カ四五〇本(佐賀)ヲ最小トシ、平均千八百二十餘本デ、植付本數ニ對シ四割ヲ現存スルニ過ギザル狀態デアル。而シテ其大部分ハ混植地デ、黒松、最モ多ク其他やしやぶし、赤松、にせあかしあ、はんのき等デアル。

本事例中僅カ一所ヲ除キ何レモ施肥ヲ行ヒタルモノデ、草木灰ヲ施セルモノ大部分ヲ占メ、藁之ニ次ギ、其他鶏糞、豆粕、油粕等ヲモ施シテ居ル。一本當施肥量ハ藁最モ多ク三〇九グラムニ當リ、草木灰ハ五二グラム、凡テ平均シテ一本ニツキ一三五グラムニ當ツテ居ルガ之ヲ成績良好地ニ比較スル時ハ七割六分ノ施肥量ニ過ギヌ、地味不良ナル割合ニ施肥量ノ少ナキモ成績不良トナリシ原因ノ一デハアルマイカ。

次ニ成績ノ良好ナルモノ及不良ナルモノニ別チテ掲記スレバ次ノ通りデアル。

一、成績良好ナル個所

宮 城 縣

植 栽 個 所	牡鹿郡石巻町東中濱國有林451。
地 形 及 海 拔 高	海拔二—三米海岸砂地ニシテ多少凹凸アルモ一般ニ平坦。
地 質 及 土 壤	沖積層ニシテ全砂土泥氣及鹽分共ニ少ナク適潤地。
植 栽 面 積	〇・四八ヘクタール。
植 栽 年 度	昭和七年。
植 栽 付 本 數	三、九六〇本。
現 在 本 數	三、五四〇本。
種 苗 ノ 産 地	石巻苗圃。
施肥ノ種類及時期	完全肥料、春季。
施肥ノ分量及方法	春季植付ニ當リ苗木一本ニ八一—一五瓦宛施ス。
生育狀況	直徑大ナルハ一・四糎普通〇・九糎、高サ最大一・〇米普通〇・四米鬱閉中。
手入れ保護及間伐ノ狀況	根元ノ陷没セルヲ根踏シ、尙ホ植栽當時西北位ニ立藁ヲナシ、更ニ砂土灼熱スル所ニハ雜草ヲ敷イヌ。

福島縣

植栽個所
地形及海拔高
地質及土壤
植栽面積
植栽年度
植栽本數
現存本數
種苗ノ產地
施肥ノ種類及時期
施肥ノ分量及方法
生育狀況
手入保護及間伐ノ狀況

伊達郡柱澤村大字柱田字臺座山。海拔二二〇米、傾斜三〇度内、外ノ丘陵狀ヲナセル所アリ。西ニ面シ、風當リ強ク早秋ヨリ晩春ニ至ル間結氷甚シク、ヨリ度ニ反シ、晩春ヨリ早秋ニ至リ極度ニ乾燥スル所デアアル。五〇〇米ノ所ニ耕地ガアル。基岩ハ花崗片麻岩ヨリ成リ、古來ヨリノ禿地。土壤ハ之等ノ風化セルモ、石英粒ニ乏シク、長石粒ニ富ミ、淺ク乾燥シ、砂土ニシテ結合力弱ク、地味瘠惡。



昭和八年五月撮影

大正五年。

九、〇〇〇（芝筋工施行ニ伴フテ植付）

八、一〇〇本。

滋賀縣甲賀郡岩根村。

木灰、糞、十二月植付當時。

植付ニ際シ苗木三本宛木灰二六〇瓦、糞ハ之ヲ切り一株ニ七五瓦施用。

胸高直徑七糎、樹高六米、鬱閉密。

植付後二年間補植チナシ、地被物採取セザル様取締チナス。

新潟縣

植栽個所
地形及海拔高
地質及土壤
植栽面積
植栽年度
植栽本數
現存本數
種苗ノ產地
施肥ノ種類及時期
施肥ノ分量及方法
生育狀況

西頸城郡浦本村大字鬼伏字正知ヶ谷。鬼伏川ノ右岸ニ位スル崩壞地テ西南ニ面シ、傾斜三〇度内外、奥部ニハ絶壁ノ所ガアル。第三紀層ニ屬シ基岩ハ脆弱ナル砂岩ト頁岩ヨリ成ル、埴質壤土ニシテ深度一般ニ深ク地味良好。

一、七〇〇ヘクタール。

昭和五年。

一〇、〇〇〇本。

九、〇〇〇本。

滋賀縣甲賀郡。

直徑二・〇糎、高サ一・五米鬱閉密。

新潟縣

西頸城郡西海村大字田中字庭平。

海川ノ支流堂ノ澤ノ西岸一帶ヲ占メ東方及北方ニ二、三〇度内外ノ傾斜チナシテ居ル、海拔高二〇〇米。

地質及土壤
 植栽面積
 植栽年
 植栽付當
 現一植一植
 在(クター)付(クター)當
 種苗木ノ産地
 施肥ノ種類及時期
 施肥ノ分量及方法
 生育狀況

石川縣

第三紀層ニ屬シ、基岩ハ頁岩ヨリ成ル。填質壤土ニシテ深度淺ク地味中庸ナル。
 〇・五〇ヘクタール。
 昭和三年。
 一〇、〇〇〇本。
 四、五〇〇本。
 滋賀縣甲賀郡。
 根元直径三・〇糎、高サ二・五米、鬱閉密。

地質及土壤
 植栽面積
 植栽年
 植栽付當
 現一植一植
 在(クター)付(クター)當
 種苗木ノ産地
 施肥ノ種類及時期
 施肥ノ分量及方法
 生育狀況

羽咋郡西増穂村字酒見。
 右部落ノ西方一キロノ所ニアル禿裸地で、傾斜二五度内外、西方ニ低下シ、海拔六〇一—一〇〇米。
 第三紀層ニ屬シ基岩ハ凝灰岩ニシテ眞土ニ母岩ノ腐植セルモノモノテ堅固、表土ハ之ガ風化セル
 壤土或ハ填質壤土ナルモ甚淺イ。
 一・六一ヘクタール。
 大正十五年三月。
 五、五〇〇本。

現一(クター)在 本産地
 種苗木ノ産地
 施肥ノ種類及時期
 施肥ノ分量及方法
 生育狀況
 手入保護及間伐ノ狀況
 主伐及間伐木利用狀況

長野縣

地質及土壤
 植栽面積
 植栽年
 植栽付當
 現一植一植
 在(クター)付(クター)當
 種苗木ノ産地

三、九〇〇株(一〇、九〇〇本トナル)。
 滋賀縣甲賀郡。
 藁、施工當時。
 苗木一本ニ付一・一一疋宛ノ割合ヲ以テ連
 東葉ヲ作リテ之ヲ埋没シ、其上方ニ接シテ
 苗木ヲ植栽シタモノナル。
 平均直径二・五〇糎、平均高二・五四米、鬱
 閉密。
 薪材ニ利用ス。植栽後四、五年ニシテ鬱閉
 シ、松天然生木ヲ被壓シ成育ヲ阻害スルニ
 ヲリ本樹ヲ伐採シテ將來松林トスル目的テ
 アル。
 下伊那郡平岡村大字平岡字櫻ノ平。
 天龍川流域ニ屬シ傾斜三五度乃至四〇度ノ
 急峻地、東北ニ面シ海拔四〇〇米ノ所、一
 軒ヲ距テ、耕地ガアル。
 花崗片麻岩ヨリ成ル崩壊地、砂質壤土。
 〇・三七ヘクタール。
 昭和二年。
 一〇、〇〇〇本。
 七、〇〇〇本。
 滋賀縣



昭和八年一月撮影
 石川縣羽咋郡西増穂村

施肥ノ種類及時期
 施肥ノ分量及方法
 生育狀況

岐阜縣

〔苗木植付當時一本ニ付一疋宛、階段内部二三種位ノ所ニ埋没シタノテアル。直徑三〇、樹高二・七米、密林ヲ形成シテ居ル〕

植栽個所
 地形及海拔高
 地質及土壤
 植栽面積
 植栽年数
 一ヘクタール當付
 一ヘクタール當付
 現在本數

可兒郡上之郷村下西ヶ平。
 海拔三六〇米ノ峰通リニシテ平均五度内外ノ緩斜地、南ニ面ス。
 古生層、礫質壤土ニシテ地味中庸。
 三・〇〇ヘクタール。
 昭和三年



昭和八年五月撮影
 長野縣下伊那郡平岡村

種苗ノ產地
 施肥ノ種類及時期
 施肥ノ分量及方法
 生育狀況

愛知縣

一、六〇〇（本個所ハ黒松、にせあかしあ、やしやぶし、やまはんのき等ト混植地アルニ、〇〇本植ノ所アル）
 一、一〇〇（前記ノ如キ混植ニシテ合計九、一〇〇本アル）
 滋賀縣
 木灰及糞、木灰ハ植付當時糞ハ階段切付ノ際埋込。
 木灰ハ苗木一本ニ付七五瓦ノ割合ヲ以テ植栽土ニ混和シテ施シ、糞ハ一本ニ付〇・七五瓦ノ割合ニ連東トシテ施ス。
 根元直徑一・八割高サ平均〇・七二米。

植栽個所
 地形及海拔高
 地質及土壤
 植栽面積
 植栽年数
 一ヘクタール當付
 一ヘクタール當付
 現在本數
 種苗ノ產地
 施肥ノ種類及時期
 施肥ノ分量及方法
 生育狀況
 手入保護及間伐ノ狀況
 植付方法

三重縣

額田郡幸田村大字久保田字八田林。
 東方ニ面シ傾斜一五度海拔高六〇米。
 花崗岩、砂質壤土深度深ク結合度軟、濕度潤。
 一・〇〇ヘクタール。
 大正十三年。
 二、四〇〇本（筋工一米ニ付一・五本ノ割）
 二、二八〇本。
 滋賀縣甲賀郡。
 稻藁、鶏糞、植栽ノ時
 植栽年度ニ基肥トシテ稻藁筋工一米ニ付一・一三疋鶏糞苗木一本ニ付七五瓦當施用、尙追肥トシテ昭和三年度ニ同量ノ鶏糞ヲ施シタ。
 平均直徑五・〇割、平均高三・〇米、鬱閉密。
 筋工一米ニ付黒松及山楡各一・五本ノ割ヲ以テ混植、外ニ薄、萩等ヲ階段前縁ニ列狀ニ植栽ス。

阿山郡友生村。
 山腹ヨリ谷ニ到ル所ニシテ一部北面シ一部ハ西南ニ面シ傾斜二〇度乃至三〇度、海拔高四〇—六〇米。

第三紀層、砂質壤土ナルモ粘質ノ所モアル、深度淺ク結合度輕鬆ナルモ部分的ニ堅キ個所モアル、湿度稍乾。

二・四〇ヘクタール。

昭和五年。

九、〇〇〇本。

八、〇〇〇本。

滋賀縣甲賀郡。

藥、施工ノ時。

一米一・三底當施工ノ時埋込ム。

直徑〇・五—二・〇釐、高〇・五—三・〇米、鬱閉中。

縣

栗太郡上田村大字相生字奥山北谷國有林。

海拔高二四〇米東南ニ面スル緩斜地。

基岩花崗岩、土壤ハ其風化セル砂質土ニシテ表土淺ク、極メテ乾燥シ易キ所。

五七・〇〇ヘクタール。

大正八年三月、

二、一九八本（本ヶ所ニハ同數ノやしやぶシテ混植ス）

地質及土壤
植栽面積
植栽年數
植栽付當
現存本數
種苗ノ產地
施肥ノ種類及時期
施肥ノ分量及方法
生育狀況

滋賀

地形及海拔
地質及土壤
植栽面積
植栽年數
植栽付當
現存本數

一ヘクタール當
現存本數

種苗ノ產地

施肥ノ種類及時期

施肥ノ分量及方法

生育狀況

手入保護及間伐ノ狀況

主伐及間伐木利用狀況

滋賀縣

野州郡篠原村大字篠原字立石國有林。

海拔三八〇米、地勢一般ニ南西ニ面シ傾斜三〇度内外。

基岩花崗岩、土壤ハ長石及花崗岩ノ風化セルモノデ、表土淺ク乾燥シ易キ所。

一八・七五ヘクタール

明治三十七年。

一四、四一六本。

七、三七七本（現在「ヒノキ」「ヒサカキ」「アカマツ」「ニセアカシア」等補植ニヨルモノ及天然生モアル）

甲賀郡

地形及海拔
地質及土壤
植栽面積
植栽年數
植栽付當
現存本數
種苗ノ產地

施肥ノ種類及時期
 施肥ノ分量及方法
 生育狀況
 主伐及間伐木利用狀況

滋賀

縣

生育良好ニシテ直径二—一〇釐、高サ一—八米一陌蓄積約二二立方米アリ鬱閉中。
 大正十年二月面積五畝ノ「ヒメヤシヤブ」ニ對シ約四〇%ノ撫育間伐ヲナシ同年三月二、〇〇〇
 本ノ扁柏ヲ補植シタ、又大正十三年十月面積一〇畝ニ對シ約四〇%ノ撫育間伐ヲナシ同年六月
 六〇本ノ扁柏ヲ補植シタ。
 前記大正十年、十三年間伐セシモノハ利用ノ途ナク且ツ不便ノ箇所ニ付之ヲ林内ニ放置シタ。

地形及海拔
 地質及土壤
 植栽
 植栽面積積
 植栽年數
 現存本數
 種苗ノ產地
 施肥ノ種類及時期
 施肥ノ分量及方法

滋賀

縣

甲賀郡南柚村大字杉谷字岩尾。
 傾斜三〇度前後ヲ以テ東南ニ面シ海拔高三二〇米、本ヶ所ヲ距ル二五〇米ノ所ニ耕地ガアル。
 基岩花崗岩、表土ハ僅カニ壤土ヲ混ズル砂土ニシテ淺カラズ、堅軟中庸ナルモ比較的乾燥シ所々
 ニ基岩ヲ露出シテ居ル。
 一・五〇ヘクタール。
 昭和四年二月。
 九、〇〇〇本（外ニ黒松四、五〇〇本ト混植）
 八、一〇〇本。
 甲賀郡三雲村。
 過燐酸石灰、植付ノ時。
 右ノ肥料ヲ苗木一本ニ付二〇瓦宛ヲ植付ノ時基肥トシテ施用シ、植付ノ翌年三月更ニ同量ノ過燐
 酸石灰ヲ追肥シタ。

生育狀況
 滋賀
 地形及海拔
 地質及土壤
 植栽
 植栽面積積
 植栽年數
 現存本數
 種苗ノ產地
 施肥ノ種類及時期
 施肥ノ分量及方法
 生育狀況
 滋賀

滋賀

縣

生育良好ニシテ中庸木ニ就テ見レバ
 萌芽平均五本、根元直径二、二釐、高
 二・〇米、未ダ鬱閉スルニ至ラズ山櫻
 ノ枯損一割ニ過ギナイ。
 甲賀郡南柚村大字杉谷字岩尾
 傾斜三〇度前後ヲ以テ東南ニ面シ海
 拔高三〇〇米、約二五〇米ヲ距テ海
 耕地ガアル。
 基岩花崗岩ニシテ其風化ニヨル砂礫
 ナ混ズル砂土ヲ表土トシ堅軟中庸深
 度淺カラサルモ所々ニ基岩ヲ露出シ
 テ居ル比較的乾燥下部ハ石積工ヲ行
 ヒ他ハ積苗工ヲ施行セル所デアアル。
 一・〇〇ヘクタール。
 大正十三年二月。
 九、〇〇〇本（外ニ黒松四、〇〇〇本ト混植）
 八、〇〇〇本。
 甲賀郡三雲村。
 草木灰、植付ノ時。
 苗木一本ニ付三七・五瓦宛砂ト混シ植付ノ時基肥トシテ施用シタ。
 生育概シテ良好特ニ下部ニ於テ良好デアアル、山櫻ノ萌芽セルモノニ至五本ニシテ、根元直径四
 釐高サ四米ニ達シテ居ル黒松ハ山櫻ニ被壓セラレテ生育不良鬱閉密。



昭和八年五月撮影 甲賀郡南柚村

植栽 個所
地形 及 海拔 高
地質 及 土 壤
植栽 面積
植栽 年 度
一ヘクタール當 本 本 數 數
一ヘクタール當 在 本 本 數 數
現 在 本 本 數 數
種 苗 ノ 產 地
施肥 ノ 種類 及 時期
施肥 ノ 分量 及 方法
生育 狀 況

蒲生郡安土村大字下豊浦字山田。
傾斜一五度乃至三〇度ヲ以テ西南ニ面シ、海拔高三〇〇米、本ヶ所ヲ距ル約六〇〇米ノ所ニ耕地ガアル。
基岩石英斑岩、表土砂質壤土ナルモ稍淺ク、乾燥ス中腹以下ニ於テ基岩ハ地表ニ近イ。
〇・八五ヘクタール。
昭和二年二月。
一〇、〇〇〇本（外ニ黒松五〇〇〇本ト混植）
九、〇〇〇本。
甲賀郡岩根村。
草木灰、過燐酸石灰、植付當時及追肥。
苗木一本ニ付草木灰三七・五瓦宛ヲ砂ト混シ植付ノ時基肥トシテ施用シ、尙ホ植栽後二年ヲ經テ四月上旬過燐酸石灰二〇瓦宛追肥シタ。
生育頗ル良好ニシテ萌芽三至乃六本ヲ出シ同時ニ混植セル黒松ヲ被壓シテ居ル、根元直徑三割高サ三米ニ達スル。

縣

甲賀郡南柳村大字杉谷字岩尾。
傾斜三〇度ヲ以テ東南ニ面スル山腹ニシテ海拔高三〇〇米、二五〇米距ツテ耕地ガアル。
基岩ハ花崗岩、表土砂質壤土ニシテ深ク、堅軟中庸、濕度乾、地表約七種ノ地被物堆積シ漸次地力ヲ恢復ス。
〇・五〇ヘクタール。

植栽 年 度
一ヘクタール當 本 本 數 數
一ヘクタール當 在 本 本 數 數
現 在 本 本 數 數
種 苗 ノ 產 地
施肥 ノ 種類 及 時期
施肥 ノ 分量 及 方法
生育 狀 況

大正二年二月。
一〇、〇〇〇本（外ニ黒松五、〇〇〇本ト混植）
五、〇〇〇本（山檀ノミノ本數）
甲賀郡三雲村。
草木灰、植付ノ時。
苗木一本ニ付三七・五瓦宛ヲ基肥トシテ植付ノ時砂ト混シテ施シタ。
生育良好ニシテ根元直徑七種、高サ六米ニ達スル。同時ニ植栽セル黒松ノ外天然生赤松生育良好ニシテ之ノ爲被壓サレ上木ハ松林ヲ形成シテ居ル、鬱閉最密。

縣

蒲生郡安土村大字下豊浦字山田。
西南ニ面シ傾斜二五度乃至三〇度海拔高二八〇米、耕地ヲ距ルコト約六〇〇米。
基岩石英斑岩右基岩ノ崩壊地テ表土ハ砂質壤土ナルモ淺ク、乾燥シ易イ。
〇・三〇ヘクタール。
大正十三年三月。
一四、〇〇〇本。
一〇、五〇〇本。
甲賀郡岩根村。

施肥ノ種類及時期
 施肥ノ分量及方法
 生育狀況

草木灰及過燐酸石灰、植栽ノ時及追肥。
 苗木一本ニ付草木灰三七・五瓦宛ナ砂ト
 混シ植付當時基肥トシテ施用シ、尙ホ植
 栽後三年ヲ經テ四月上旬過燐酸石灰二〇
 瓦宛追肥シタ。
 生育極メテ良好ニシテ多クハ一株二乃至
 四本萌芽シテ居ル、普通根元直徑四割、
 高サ五・七米ニ達ス、鬱閉密。

京都府

植栽個所
 地形及海拔高
 地質及土壤
 植栽面積
 植栽年数
 一ヘクタール當
 一ヘクタール當
 現存本数
 種苗ノ產地
 施肥ノ種類及時期
 施肥ノ分量及方法
 生育狀況

船井郡摩氣村大字穴人宇高原及宇奥ノ各
 傾斜三三度ヲ以テ西南ニ面シ海拔高二〇
 〇米。約五〇米ノ所ニ耕地ガアル。
 第三紀秩父古生層、土壤ハ石礫ヲ含ム赤
 土ニシテ磽确質粘土、稍乾燥スルモ土質中
 庸ノ所。
 〇・五四ヘクタール。
 昭和六年三月。
 五、〇〇〇本（外ニ赤松五、〇〇〇本ト混
 植）
 四、八〇〇本。
 滋賀縣。
 草木灰、稻藁、植栽ノ時。
 植付ノ時苗木一本ニ對シ一五瓦ノ草木灰ヲ植穴ニ施スト共ニ積苗工階段奥部ニ稻藁一陌宛一、七
 〇〇冠ヲ埋沒施用シタ。
 平均直徑一・六割高サ平均〇・七米鬱閉中。



昭和八年五月撮影 滋賀縣蒲生郡安土村

手入保護及間伐ノ狀況
 主伐及間伐木利用狀況

奈良縣

植栽個所
 地形及海拔高
 地質及土壤
 植栽面積
 植栽年数
 一ヘクタール當
 一ヘクタール當
 現存本数
 種苗ノ產地
 施肥ノ種類及時期
 施肥ノ分量及方法
 生育狀況
 手入保護及間伐ノ狀況
 主伐及間伐木利用狀況

吉野郡中龍門村小名字アチキ谷
 山腹及山腹ニシテ傾斜一五—二〇度東方ニ面シ、海拔四七〇米一・二軒ノ所ニ耕地アルノミ。
 片麻岩ノ風化分解ニヨル粘性砂質壤土、多少礫ヲ混ジ湿度中。
 一・三三ヘクタール。
 大正十四年、
 山橙三、〇〇〇本。赤楊三、〇〇〇本（外ニ黒松六、〇〇〇本ト混植）
 山橙二、九〇〇本。赤楊二、七〇〇本
 滋賀縣甲賀郡。
 木灰、植付ノ時。
 苗木一本當七五瓦ノ木灰ヲ植付ト同時ニ土砂ト混合シテ植栽ス。
 平均直徑二・一割樹高平均三・三米、鬱閉密。
 山橙及赤楊ノ生長ト共ニ黒松亦生長良好トナリタル時、山橙及赤楊下枝並主木ニツキ適當ノ枝打
 及間伐ヲナシ黒松ニ陽光ヲ與ヘ又天然生赤松稚樹ヲ保護スル。
 間伐材ハ薪材ニ利用ス。

（赤松ノ生育ヲ助長シ松茸ノ増殖ヲ計ラシ爲山橙ハ植栽後生育良好ナレバ四、五年惡シキモ十年ニ
 テ伐採シ以後三、四年毎ニ伐採セントス）
 （前記ノ如ク松茸ノ増殖ヲ目的トスルモノ故山橙ハ四、五年ニテ皆伐シ、此作業ヲ繰返ス事五、六
 回ニシテ赤松林トナス豫定テ山橙ハ絶滅セシムル。）

和歌山縣

有田郡藤並村大字奥字道京、扇谷
西北ニ面シ傾斜二〇―三五度、海拔一〇〇―二〇〇米ノ山麓ヨリ頂上ニ跨ツテ居リ耕地ヲ去ル一
〇〇―五〇〇米ノ所。
白亞紀層ニ屬シ基岩ハ砂岩、礫質壤土ニシテ表土ハ比較的淺ク地味中。
一六・八八ヘクタール。
大正五、六、七、一〇、一一年度
六、〇〇〇本(ヒメヤシヤアシ)七割ヲ占メ外ニ「ニモアカシア」二割「ヤシヤアシ」一割ノ混植地テ
アル。
四、二〇〇本。
滋賀縣甲賀郡
木灰、稻藁、植栽ト同時。
苗木一本ニ付木灰八〇瓦、稻藁四〇瓦。植穴ニ木灰ヲ容レ土壤ト灰ヲ混和シタル後植栽シ、藁ハ
約三割位ニ切斷シテ根元ニ撒布シタ。
平均直徑三割樹高四米ニ達シ一株ヨリ普通三、四本多キハ五、六本ノ萌芽ガアル。「ヒメヤシヤア
シ」ハ中腹以上ニアル。鬱閉密。
植栽ノ翌年一割ノ補植ヲナシ苗木植栽後五ケ年間野兎ノ豫防ニ努メタ。昭和六年三月一部ノ間伐
試験ヲナセルニ過ギナイ。

鳥取縣

氣高郡末恒村大字伏野字芳谷

地形及海拔高
地質及土壤
植栽面積
植栽年度
一ヘクタール當
一ヘクタール當
現存本數
種苗ノ產地
施肥ノ種類及時期
施肥ノ分量及方法
生育狀況

岡山縣

地形及海拔高
地質及土壤
植栽面積
植栽年度

東北ニ面シ傾斜三〇度内外海拔高
一三〇米。
第三紀層、砂質壤土、深度中層、
湿度適潤結合度軟
〇九二ヘクタール
大正十二年。
五、〇〇〇本。
三、三〇〇本。
東伯郡矢送村。
稻藁及藁灰、三月下旬。
苗木一本ニ付稻藁五五瓦及藁五五
瓦ヲ灰トシテ苗木植付ト同時ニ施
肥ス。
平均直徑五割高サ三・六米、鬱閉



昭和八年五月撮影
鳥取縣氣高郡末恒村

和氣郡英保村大字南方字恩徳谷

本村ト本莊村トノ村境ヲナセル地點ニシテ山背ヨリ北西ニ向ツテ二〇―二五度ノ傾斜ヲナセル一
圃地テアル。海拔高二〇〇―二五〇米。
石英粗面岩、砂質壤土。
一・五三ヘクタール。
大正十四年春季。

一ヘクタール當
植付本數
現一ヘクタール當
在産地數
種苗ノ産地

一ヘクタール當
植栽年數
一ヘクタール當
付本數
現一ヘクタール當
在産地數

種苗ノ産地

施肥ノ種類及時期

施肥ノ分量及方法

生育狀況

岡山

地形及海拔高

地質及土壤

植栽面積

施肥ノ種類及時期

施肥ノ分量及方法

生育狀況

岡山

地形及海拔高

地質及土壤

植栽面積

四、三〇〇本（小數ノ「ヤシヤア
シ」ヲ含ム外ニ同數ノ黒松ヲ混
植）
三、七一〇本。
滋賀縣甲賀郡。
過磷酸石灰、植栽直後。
苗木一本ニ付右肥料三七五ヲ根
元ノ周圍一〇糶内外ノ所ニ苗木
ニ接觸セザル様撒布シ少量ノ土
ヲ覆フタノテアル。
平均根元直徑四・三糶樹高平均
四・一米、鬱閉密。



昭和八年五月撮影
岡山縣和氣郡英保村

三〇

小田郡稻倉村大字上稻木字前ノ平。
南西ニ面シ傾斜三〇度内外ノ傾斜ヲナセル山麓地點海拔高七〇一・一〇〇米。
秩父古生層ノ粘板岩及硬砂岩、堆積壤土。
一・二二ヘクタール。
大正十二年春季。
三、五二〇本。（外ニ同數ノ黒松ト混植）
（昭和七年春季伐採後萌芽セザル故、掲載セズ）
滋賀縣甲賀郡。

施肥ノ種類及時期

施肥ノ分量及方法

生育狀況

手入保護及間伐ノ狀況

主伐及間伐木利用狀況

山口

地形及海拔高

地質及土壤

植栽面積

施肥ノ種類及時期

施肥ノ分量及方法

生育狀況

山口

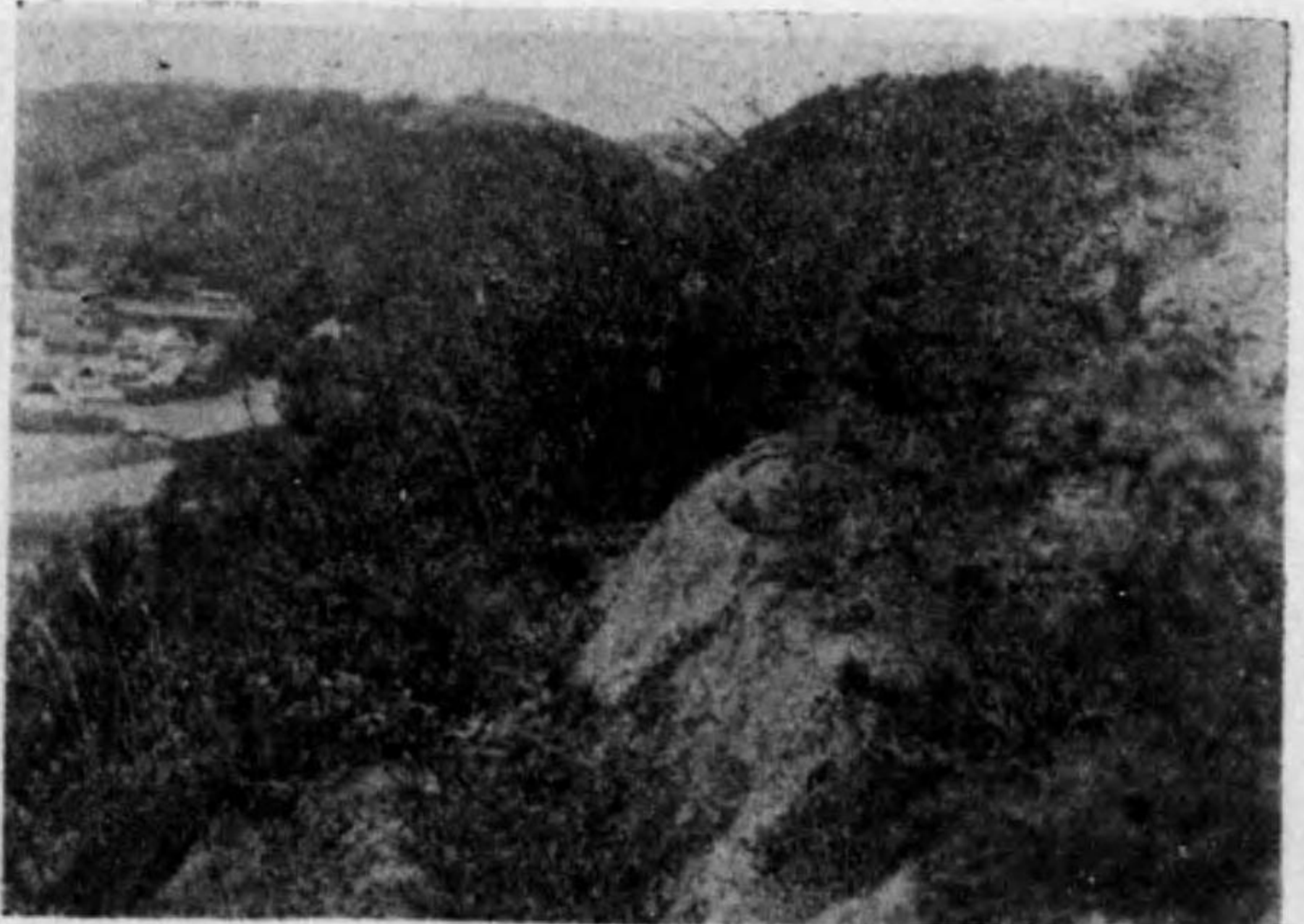
地形及海拔高

地質及土壤

植栽面積

木灰、植栽直前
植栽直前苗木一本ニ付木灰三七五ヲ土トヨ
ク混和シ其後苗木ヲ植付ク。
（皆伐シテ萌芽セザル故記載セズ）
昭和七年春「ヒメヤシヤアシ」全部ト黒松ノ
一部ノ間伐及下刈ヲ行ツタ。
間伐材ハ薪材トシテ利用。

厚狭郡王喜村大字松屋字中畑
海拔六〇米、西南ニ面シ傾斜一五度。本縣
西南ノ海岸ニ近キ箇所ニシテ雨量比較的多
イ所デアアル。砂質壤土ニシテ淺ク、結合度軟濕
度潤
一・三二ヘクタール
大正十年



昭和八年五月撮影 岡山縣小田郡稻倉村

一ヘクタール當
植栽年數
一ヘクタール當
付本數
現一ヘクタール當
在産地數

種苗ノ産地

施肥ノ種類及時期

施肥ノ分量及方法

生育狀況

山口

地形及海拔高

地質及土壤

植栽面積

施肥ノ種類及時期

施肥ノ分量及方法

生育狀況

山口

地形及海拔高

地質及土壤

植栽面積

二、四二五本（本ヶ所ハ松トノ混植地）
一、八一九本
本縣
木灰、菜種油粕及稻葉植栽ト同時（三月上旬）
苗木一本ニ付菜種油粕三七五木灰約一〇瓦ヲ混和シ、苗ノ後方一〇糶内外ノ所ニ淺キ穴ヲ掘リテ
埋メ、尙葉ハ約〇・二盞宛苗木ノ根元ニ撒布シ乾燥ヲ防グト共ニ肥料トシテ施シタ。

三一

生育狀況

直徑九割高サ五米、鬱閉中。

山口縣

吉敷郡小鱈村大字下小鱈字尾曾越

海拔高三二〇米、南方ニ面シ傾斜二〇度。本縣中央南部ノ一部ニシテ比較的雨量多キ所。花崗岩、砂質壤土ニシテ淺ク、結合度鬆、湿度乾。

〇・六三ヘクタール

昭和四年。

一、三八六本(本ヶ所ハ外ニ「ヤシヤアシ」及松トノ混植地デアル)。

一、二四七本。

滋賀縣。

過燐酸石灰及稻藁、植栽ト同時(三月上旬)

苗木一本ニ付過燐酸石灰六七瓦ヲ植穴ニ入レ土砂ト共ニ攪拌セルモノヲ、藁ハ約〇・二近宛苗木ノ根元ニ撒布シ乾燥ヲ防グト共ニ肥料トシテ施シタ。

根元直徑二・七割、高キ一・八米、鬱閉中。



昭和八年五月撮影 山口縣陝郡王喜村

生育狀況

山口縣

植栽個所

地形及海拔高

地質及土壤

植栽面積

植栽年度

一(ヘクタール)當付本數

一(ヘクタール)當付本數

現在本數

種苗ノ產地

施肥ノ種類及時期

施肥ノ分量及方法

生育狀況

香川縣

木田郡庵治村字丸山國有林ニ林班いろ小班内。

本ヶ所ハ屋島ノ東方瀬戸内海ニ突出セル海拔七〇米ノ海岸松林デアル。

花崗岩ヲ母岩トシ之方風化ニヨル砂質壤土ア、地層淺ク乾燥シ、現在落葉採集ヲ禁止セル結果著シク腐植質ヲ増加シタ。

九・八四ヘクタール。

植栽面積

地形及海拔高

地質及土壤

植栽個所

地形及海拔高

地質及土壤

植栽面積

地形及海拔高

地質及土壤

植栽個所

植 栽 年 度
 一ヘクタール當
 現 在 本 本 數 數
 種 苗 ノ 産 地
 施 肥 ノ 種 類 及 時 期
 施 肥 ノ 分 量 及 方 法
 生 育 狀 況
 手 入 保 護 及 間 伐 ノ 狀 況
 主 伐 及 間 伐 木 利 用 狀 況

香 川 縣

植 栽 個 所
 地 形 及 海 拔 高
 地 質 及 土 壤
 植 栽 面 積
 植 栽 年 度

明治三十六年。
 六、〇〇〇本。
 三、〇〇〇本(新植後四回補植ヲ行ツタ)。
 滋賀縣甲賀郡岩根村。
 油糟、木灰補植ノ時二月中。
 大正元年度第二回補植實行ノ時第一回補植苗ノ成績不良ナルモノニ對シ一本三七瓦當ヲ根元ヲ掘
 ツテ施肥シタガ、其後補植ノ都度同量ノ肥料ヲ施シタ、尙ホ第三回補植ノ時苗木一本ニ付木灰一
 合五勺ヲ試驗的ニ施シタ。
 新植當時ハ不良デアツタガ其後數回補植ノ結果漸次良好トナリ萎縮セン松モ漸次勢ヲ回復シ地力
 増進シタ、之ヲ松ノ若返リト名ヅクタ。現在「ハクシバリ」平均胸徑八厘米樹高平均四米デアアル。
 補植ハ明治四十四年、大正元年、二年、三年ノ各年度ニ行ヒ、間伐ハ試驗的ニ大正十一年〇・一陌
 ニ對シテ行ツタ、間伐歩合八〇%。古來地元村民ガ慣行的ニ落葉採取ノ風ガアツタガ「ハクシバ
 リ」植栽ト同時ニ落葉採取ヲ禁ジテ保護ヲ加ヘタ。
 間伐木ハ薪材トシテ利用價値大デ、完全ニ燃焼シ煙少ナク火力強大ニニシテ一般市場カラ歡迎サ
 レテ居ル。

仲多度郡吉野村字宇戸山。
 一般ニ西ニ面シ傾斜三〇度内外、海拔二五〇米、約五〇〇米ノ所ニ溜池ガアル。
 第三紀層、粗鬆ナル花崗岩系ノ砂質壤土、淺ク濕度乾。
 二・九〇ヘクタール。
 昭和二年。

植 栽 年 度
 一ヘクタール當
 現 在 本 本 數 數
 種 苗 ノ 産 地
 施 肥 ノ 種 類 及 時 期
 施 肥 ノ 分 量 及 方 法
 生 育 狀 況

愛 媛 縣

植 栽 個 所
 地 形 及 海 拔 高
 地 質 及 土 壤
 植 栽 面 積
 植 栽 年 度
 一ヘクタール當
 現 在 本 本 數 數
 種 苗 ノ 産 地
 施 肥 ノ 種 類 及 時 期

五、五〇〇本。
 三、六〇〇本。
 綾歌郡端岡村。
 根元平均直徑四・〇厘米樹高四・八米、鬱閉密。

越智郡盛口村大字井口字米山第三林班(森林組合地區)。
 海拔一〇〇米西南ニ面シ傾斜平均三〇度、山畝ノ上部ニ位スル所デアアル。
 基岩花崗岩、砂質壤土ナルモ粘着性無ク、凝集力ニ乏シイ。工事施行後次第ニ土壤ノ改良行ハレ
 ツ、アル。
 九・三二ヘクタール。
 大正五年。
 三、〇〇〇本(外ニ同數ノ黒松ト混植)。
 二、九七五本。
 滋賀縣甲賀郡。
 藥、冬期施工ノ時。

施肥ノ分量及方法
生育ノ状況
手入保護及間伐ノ状況
主伐及間伐木利用状況

苗木一本當一・二七疇ノ割合ヲ以テ工事施行ノ時筋工ノ奥側ニ埋込ム。
第一回伐採四年目ノ生育状況ア、平均直径(根元ヨリ一米上リ)二・一釐、樹高二・五―四・〇米、平均萌芽本數十本ヲ算ヘ鬱閉極密。
補植ヲ行ヒタルノミ。
本ヶ所ハ植栽後十二年ニシテ山楡ノ皆伐ヲ行ヒ、伐採木ハ森林組合直營ヲ以テ薪材トシ又製炭ニ供シタ。

愛媛縣

植栽ノ個所
地形及海拔高
地質及土壤
植栽面積
植栽年度
植栽本數
現存本數
種苗ノ產地
施肥ノ種類及時期
施肥ノ分量及方法
生育ノ状況

越智郡宮浦村大字宮浦字琵琶谷、第一林班は(森林組合地區)。
瀬戸内海ノ島部ニシテ海拔一〇〇米、傾斜平均三五度ヲ以テ北ニ面シテ居ル。(一般降雨少ナク本縣内ニ於テ最少降水區域)。
基岩、花崗岩、砂質壤土ナルモ粘着性無ク、凝集力ニ乏シ工事施行後次第ニ土壤ノ改良行ハレツツアル。
二・一―ヘクタール。
大正三年。
四、一五二本(外ニ黒松一、三七五本ト混植尙ホ幾分「ヤシヤアシ」ヲモ植栽ス)。
三、四一六本(黒松ハ被壓サレテ枯損シ、補植セル「ヤシヤアシ」ハ幾分殘存シテ居ル)。
滋賀縣甲賀郡。
藥、冬期施工ノ時。
苗木一本當六八瓦ノ割合ヲ以テ、工事施工ノ時筋工ノ奥側ニ埋込ム。
直径(根元ヨリ一米上リ)平均九釐、高サ平均七米、鬱閉極密。

手入保護及間伐ノ状況
主伐及間伐木利用状況

植付ノ翌年補植ヲ行ヒタルノミ。
(明年度ヨリ主伐ヲ行フ豫定)。

福岡縣

植栽ノ個所
地形及海拔高
地質及土壤
植栽面積
植栽年度
植栽本數
現存本數
種苗ノ產地
施肥ノ種類及時期
施肥ノ分量及方法
生育ノ状況
手入保護及間伐ノ状況
主伐及間伐木利用状況

八女郡矢部村樺鷯。
中腹部以上ニシテ傾斜約三〇度、東南ニ面ス、海拔高四四〇米。
安山岩、輝石安山岩及其集塊岩、礫質壤土ニシテ土層中庸地味瘠惡。
〇・三四ヘクタール
大正十二年。
九、〇〇〇本。
一、三六〇本。
滋賀縣。
胸高直径四・五釐、高サ四・五米、鬱閉稍密。
植栽後五年目ニ除伐ヲ行ヒ、同七年目ニ間伐シ始メ毎年一回宛間伐ヲ行フ。
薪炭材ニ供シタ。

佐賀縣

植栽個所 三養基郡中原村大字養原字深底。
 地形及海拔高 海拔二〇〇米乃至四〇〇米ノ南面セル山腹ノ急斜地、本ヶ所ノ南一軒餘ノ所ニ耕地ガアル。
 地質及土壤 基岩ハ花崗岩、土壤ハ其風化セルモノニシテ砂多ク結合度極メテ弱。
 植栽面積積 一・八五ヘクタール
 植栽年度 大正四年
 一ヘクタール當 四、〇〇〇本
 一ヘクタール當 一、五〇〇本
 現存本數 滋賀縣。
 種苗ノ產地 藁及灰、植付當時。
 施肥ノ種類及時期 苗木一本ニ付藁〇・五六疋、灰七五瓦宛施用。
 施肥ノ分量及方法 平均直徑九釐、平均樹高六・三米、鬱閉密。
 生育狀況 植栽後三四年間手入ヲナシ、十ヶ年目ヨリ適當間伐ヲ行ツタ。
 手入れ保護及間伐ノ狀況 間伐材ハ薪材トシテ利用シタ。
 主伐及間伐木利用狀況

二、成績不良ナル個所

岐阜縣

植栽個所 可見郡上之郷村下西ヶ平。
 地形及海拔高 海拔約三六〇米ノ峰通リニシテ平均五度内外ノ緩斜ヲ以テ南ニ面シテ居ル。
 地質及土壤 古生層、礫質壤土、地味中庸。
 植栽面積積 二・〇〇ヘクタール。
 昭和四年
 一ヘクタール當 二、三〇〇本(外ニ黒松、やしやぶし、やまばんのき等總計一、二、〇〇〇本植栽セル所デアアル)。
 一ヘクタール當 一、二〇〇本(前記ノ通混植地ヲ現在八、四〇〇本)。
 現存本數 滋賀縣。
 種苗ノ產地 ひめやしやノ生育不良テ根元直徑〇・六釐高サ〇・一五米、其他ノ樹種ハ之レヨリ稍可良。
 生育狀況

愛知縣

植栽個所 愛知郡幡山村大字菱野字南山。
 地形及海拔高 西北向、傾斜二五度山頂部、海拔高一五〇米。
 地質及土壤 第三紀新層、砂礫土深度淺結合度堅、濕度乾。
 植栽面積積 五・〇〇ヘクタール

明治四十三年

三、〇〇〇本(筋工一米ニ付一本ノ割)。

六〇〇本

滋賀縣甲賀郡。

稻藁、糞灰及鶏糞、植栽ノ時。

植栽時ニ基肥トシテ筋工一米ニ付稻藁約二疋、糞灰苗木一本ニ付八〇瓦、鶏糞七五瓦當施用、向

大正二年春同量ノ鶏糞ヲ追肥ス。

平均直径(地上一〇割)、一・六割、平均樹高一・七米。生育不良ニシテ漸次枯死ノ状態ニアル、鬱

閉疎。

階段巾〇・六米トシ前縁ニ薄株ト萩苗木植付、其後方ニ敷藁ヲナシ施肥ノ上ニ一米當黒松一・五山

榎一本ノ割ニ混植、山榎ハ植栽ニ當リ摘枝斷根ヲ行ツタ。

縣

額田郡幸田村大字久保田字百皿。

傾斜二〇度南面セル山腹、海拔高六〇米。

花崗岩、礫質壤土、深度淺ク結合度軟、濕度乾。

〇・五〇ヘクタール。

大正十二年。

二、六〇〇本(筋工一米ニ付一本ノ割)。

植栽 年度
 一ヘクタール當 本數
 現 在 本數
 種 苗 ノ 産 地
 施肥ノ種類及時期
 施肥ノ分量及方法
 生育 狀 況
 手入保護及間伐ノ狀況
 植 付 方 法

愛知
 植栽 個 所
 地 形 及 海 拔 高 所
 地 質 及 土 壤
 植 栽 面 積
 植 栽 年 度
 一ヘクタール當 本數
 現 在 本數
 種 苗 ノ 産 地

一ヘクタール當 本數
 現 在 本數
 種 苗 ノ 産 地
 施肥ノ種類及時期
 施肥ノ分量及方法
 生育 狀 況
 手入保護及間伐ノ狀況
 植 付 方 法

縣

甲賀郡大原村大字神字瀧谷。

傾斜四〇度ノ崩壊地タリシテ法切リ施工セル個所ア、現在傾斜三五度内外北面セル所アアル海拔

七二〇米、耕植ハ一、二〇〇米ノ所ニアルノミ。

基岩花崗岩、表土ハ礫質砂土ニシテ淺ク基岩ノ露出多ク土地ハ乾燥シテ居ル。

〇・三〇ヘクタール。

大正十四年三月。

一五、〇〇〇本

四、五〇〇本。

甲賀郡岩根村。

施肥ノ種類及時期
施肥ノ分量及方法
生育狀況

草木灰、植栽ノ時。
苗木一本ニツキ草木灰三七・五瓦宛砂ト混シ植付ノ際基肥トシテ施用。
生育極メテ不良ニシテ大部分ハ枯損シ、現存セルモノハ約三割テ萌芽一株ニツキ二乃至三本、根元直徑一・五種高サ一・〇米ニ過ギナイ。

兵庫縣

植栽個所

神崎郡豊富村神谷熊ノ倉。

地形及海拔高

本施業地ハ先緒地數個ニ施工シ山麓ヨリ山腹ニ及ビ、東南ニ面シ傾斜平均二五度内外、海拔高八〇―一二〇米内外テアル、耕地ニ接続スル。

地質及土壤

第三紀層、粘質壤土、上層淺ク乾燥ス、結合度中、地味不良。

植栽面積

一・一一ヘクタール。

植栽年度

昭和三年。

植栽本數

五、〇〇〇本(外ニ黒松五、〇〇〇本ト混植)

現存本數

二、〇〇〇本。

種苗ノ產地

滋賀縣。

施肥ノ種類及時期

稻葉、芝張付ノ時。

施肥ノ分量及方法

苗木一本ニ付一〇〇瓦施用、芝張付ノ時裏込土中ニ伏込ム。

生育狀況

活着歩合惡シク又生長不良根元平均徑四・〇種、高サ一・五米。鬱閉疎。

手入れ保護及間伐ノ狀況

工事施行翌年苗木一割五分ノ補植ヲセルノミ。

和歌山縣

植栽個所

有田郡御靈村大字庄字切山外二。

地形及海拔高

地勢概シ北東ニ面シ傾斜一五―三五度海拔一一〇―二〇〇米ノ山麓ヨリ頂上ニ渉ル區域テアル、溜池ノ上部ニアル。

地質及土壤

白堊紀層ニ屬シ基岩ハ砂岩、土壌概シ赤褐色ノ粘質土ニシテ表土淺ク地味ハ極メテ瘠惡テアル。

植栽面積

一・〇〇〇ヘクタール。

植栽年度

大正八、九、一〇年。

植栽本數

六、〇〇〇本(本ヶ所ハ「ヒメヤシヤブシ」七割「ニセアカシア」二割「ヤシヤブシ」一割ノ混植地デア

現存本數

二、四〇〇本。

種苗ノ產地

滋賀縣甲賀郡。

施肥ノ種類及時期

木灰及稻葉、苗木植栽時。

施肥ノ分量及方法

苗木一本ニ付木灰八〇瓦、稻葉四〇瓦宛、植穴ニ木灰ヲ入レ土壤ト木灰ヲ混和シタル後植付、葉ハ約三種位ニ切斷シテ根元ニ撒布シタ。

生育狀況

生育何レモ不良ニシテ胸高直徑二種、樹高三米以下ノモノ多イ。殊ニ植付當時枯損セルモノ多カ

手入れ保護及間伐ノ狀況

ツタ。鬱閉極メテ疎。
植栽後三ケ年間ハ引續キ二―三割ノ補植ヲナシ、又成績不良ナル箇所ニハ木灰或ハ過燐酸肥料ノ施肥モナシ土質ノ改良ヲ圖ツタ。殊ニ稻葉ノ施肥量モ増加シタ。

鳥取縣

植栽個所

八頭郡下私都村大字上峰寺字笑道。

地形及海拔高
地質及土壤
植栽面積
植栽年度
一ヘクタール當
植栽本數
現存本數
種苗ノ產地
施肥ノ種類及時期
施肥ノ分量及方法
生育狀況

岡山縣

地形及海拔高
地質及土壤
植栽面積
植栽年度

南東ニ面シ傾斜三五度海拔高一五〇米。
第三紀層、砂質壤土深度淺シ、濕度乾、結合度輕鬆。
〇・七三ヘクタール。
大正九年。
五、〇〇〇本。
三、〇〇〇本。
東伯郡矢送村。
稻藁及藁灰、三月下旬。
苗木一本ニ付稻藁五瓦及藁五瓦チ灰トシテ苗木植付ト同時ニ施肥。
生育不良ニシテ直徑平均一・五糎高サ一・五米、鬱閉疎。

淺口郡里庄村大字里見字河骨。
南西ニ面シ傾斜既シテ緩ニシテ平均一五度、海拔高六〇一—一〇〇米。
花崗岩、土壤ハ砂土。
一・七四ヘクタール。
大正十二年春季。

一ヘクタール當
植栽本數
現存本數
種苗ノ產地
施肥ノ種類及時期
施肥ノ分量及方法
生育狀況
岡山縣

岡山縣

四、二六二本(少數ノ「ヤシヤブシ」ヲ含ム。尙同數ノ黑松ト混植)。
一、四〇〇本。
滋賀縣甲賀郡。
木灰、植栽直前。
植栽直前苗木一本ニ付木灰三七瓦チ土トヨク混和シ、然ル後苗木ヲ植付ク。
根元直徑平均三・四糎、平均樹高二・二米、鬱閉至テ疎。
吉備郡大井村大字粟井。
山頂ニ位シ點在セル禿地ニ施工セル所傾斜ハ概シテ急、平均二五—三〇度。海拔高二五〇—三〇〇米。
花崗岩、土壤ハ砂土。
一・四七ヘクタール。
大正十二年春季。
四、〇五三本(外ニ同數ノ黑松ヲ混植)。
六三九本。
滋賀縣甲賀郡。
木灰、植栽直前。

施肥ノ分量及方法
生育狀況

植栽直前苗木一本ニ付木灰三七瓦チ土トヨク混和シ然ル後苗木ヲ植付。
平均根元直徑一・八釐、平均樹高一・〇米、鬱閉至ツテ疎。

山口縣

植栽個所

佐波郡右田村大字上右田字三谷。

地形及海拔高

海拔二五〇米、東南ニ面シ傾斜三〇度。本縣中央南方ノ一部ニシテ比較的雨量多イ。

地質及土壤

花崗岩、砂質壤土ニシテ淺ク結合度軟、濕度乾。

植栽面積

三・二〇ヘクタール。

植栽年数

大正十一年。

植栽付當一ヘクタール當

二、五七〇本(本ヶ所ハ松トノ混植地デアール)。

現在本數

二、四四〇本。

種苗ノ產地

本縣。

施肥ノ種類及時期

木灰、菜種油粕及稻藁植栽ト同時(三月上旬)。

施肥ノ分量及方法

苗木一本ニ付菜種油粕三七瓦木灰約一〇瓦チ混和シ、苗ノ後方一〇釐内外ノ所ニ淺キ穴ヲ掘リテ埋メ、尙ホ糞ハ約〇・二近宛苗木ノ根元ニ撒布シ、乾燥ヲ防グト共ニ肥料トシテ施シタ。

生育狀況

生長頗ル不良テ直徑一・八釐高サ一・一米ニ過ギナイ。鬱閉疎。

香川縣

植栽個所

仲多度郡七箇村大字七箇字三田及東山。

地形及海拔高

傾斜二五度ニシテ丘陵狀ヲナス海拔高一九三米。

地質及土壤

第三紀層、粗鬆ナル花崗岩系ニシテ砂質壤土、深度淺ク濕度乾。

植栽面積

三・八一ヘクタール。

植栽年数

大正九年。

植栽付當一ヘクタール當

三、六〇〇本。

現在本數

二、三〇〇本。

種苗ノ產地

綾歌郡端岡村。

施肥ノ種類及時期

本ヶ所ニハ無肥料ノ所ト施肥試驗實行地トアリ、試驗地ニハ鹽酸カリ、磷酸アルミナ、過磷酸石灰、鶏糞、硫酸アンモニヤ各種ヲ施ス三月下旬。

施肥ノ分量及方法

施肥量ハ肥料ノ種類ニヨツテ異ナリ區々デアール、其方法一〇釐内外根株ヲ距リタル所ニ深サ五釐ノ溝ヲ掘リ土ト混ジテ施ス。

生育狀況

平均根元直徑三・六釐、高サ二・四米、鬱閉疎。

愛媛縣

植栽個所

宇摩郡金生村大字山田井字黒岩。

地形及海拔高

地勢南面シ傾斜三〇度中腹ニ位セル所テ海拔高一〇〇米。

地質及土壤

白堊紀層礫質壤土ニシテ酸度強ク、表土淺クシテ乾燥スル地味不良ノ地デアール。

植栽面積

三・八八ヘクタール。

植栽年度 大正五年。
 一、二〇〇本(外ニ黒松五、五〇〇ヲ混植)。
 一、二五五本。
 滋賀縣甲賀郡。
 施肥ノ種類及時期 藁及木灰、藁ハ冬期施工ノ時、木灰ハ植付當時。
 施肥ノ分量及方法 苗木一本ニ付藁〇・九疋當ヲ筋工ニ施用シ其奥側ニ埋込ミ、木灰ハ九〇瓦當施シタ。
 生育狀況 直径(根元ヨリ一米上リ)平均一・五釐、高サ平均一・〇米 鬱閉至ツテ疎。

佐賀縣

植栽箇所 東松浦郡久野村大字大野字菖蒲ヶ谷。
 地形及海拔 海拔二五〇米内外ノ山頂部ヲ占メ、東向ノ急斜地。
 地質及土壤 基岩ハ花崗岩、土壤ハ其風化ニヨルモノニシテ結合度弱。
 植栽面積 一・六四ヘクタール。
 植栽年度 大正八年。
 植付當 四、〇〇〇本。
 現存本數 四五〇本。
 種苗ノ產地 滋賀縣。

施肥ノ種類及時期
 施肥ノ分量及方法
 生育狀況
 主伐及間伐木利用狀況

藁及灰、植付當時。
 苗木一本ニ付藁〇・五六疋、灰七五瓦宛施用。
 松ニ被壓サレ生育不良ニシテ殘存セルモノ至ツテ少ナク、其平均直径一・五釐、高サ平均三・〇米 鬱閉疎。
 植栽後數年間階段工事ノ修理ヲナシ、爾後三回間伐ヲ行ツタ。
 間伐材ハ薪材トス。

ひめやしやぶしハ砂防植栽樹トシテ最モ喜バレテ居ルガ、今其長所ヲ擧ゲレバ次ノ通りデアル。

- 一、細根ノ發達旺盛ニシテ網狀ニ伸長蔓延シ、植栽當初ヨリ山腹土砂ノ移動ヲ防止スル力大キイ。
- 二、根際ヨリ多數ノ萌芽ヲ生ジ、能ク土地ヲ被覆スル點ニ於テ本樹ニ及ブモノハ無イ。
- 三、枝低キ爲風ノ林内ニ吹キ込ム力弱ク多量ノ落葉ヲ林内ニ留メ速ニ地被物ヲ生ズル。
- 四、萌芽力旺盛ニシテ且ツ如何ナル瘠惡地ニモ堪ユル。

- 斯クノ如キ長所ノ反面ニハ次ノ如キ缺點モアル。
 - 一、寒地ニ適シナイ。
 - 二、兎及鐵砲蟲等ノ害ニ罹ルコトガ多イ。
 - 三、養苗上連作シ能ハズ且「ベト」病斑點病其他蟲害多イ。
 - 四、極端ニ淺根性ナルガ爲基岩トノ連絡不十分デアル。
- 尙ホ此樹トやしやぶしトノ砂防植栽上ノ效果ニ就キ對照スレバ次ノ通。

ひめやしやぶし

- 一、萌芽力旺盛ニシテ幼時ヨリ多數ノ萌芽ヲ出シ能ク土地ヲ被覆スル。
- 二、細根ノ發達旺盛デ網狀ニ伸長蔓延シ、植栽當時ヨリ山腹土砂ノ移動ヲ防止スル、而シ極端ニ淺根性ナルニヨリ基岩トノ連絡不十分デ急傾斜地ノ山崩又ハ山拔等ノ被害ヲ防止シ得ザルコトガアル。
- 三、土砂扞止ノ效果ハ山腹表面ニ多ク而モ急速デアアル。

以上ノ如クナルヲ以テ兩樹種ノ何レヲ選ブベキカ、又單純林ニスベキカ或ハ混濬林ニスベキカニ就テハ十分地形地質荒廢ノ狀況其他ノ關係等ヲ調査シテ決定スベキ問題デアアル。

はげしぱり及やしやぶし等ノ下木植栽ノ效果所謂松ノ若返リニ就テハ、大正十一年以來研究セル永峰小太郎氏ハ大日本山林會報(四八一號)ニ發表シ次デ昭和六年二月林學會雜誌ニ於テ、森川均一氏ノ高松營林署管内丸山國有林ニ於ケル實驗ニ基イテ松林ニ對スルはげしぱり混植ノ效果ニ就テノ立地學的研究發表以來識者ノ喧論スル所トナツタ。而シテ此ノ混植ニ就キ福山營林署ニ於テハ、昭和五年ヨリ七年度ニ至ル三ヶ年ニ三六陌ニ對シ實施セルガ、更ニ同署管内沿海地方ノ半坂山國有林84ニ於テ明治三十六年三月はげしぱり混植セル個所ト然ラザル個所トノ赤松林ニツキ、比較調査セル結果ニヨレバ、混植後二十八年ヲ經過セル赤松ハ混植セザルモノニ比シ其材積生長ニ於テ百倍餘ノ倍率ヲ示シテ居ル事實ヲ發見シタトノ事デアアル。而シテ斯クノ如クはげしぱりノ混植ニヨリ生長量ノ格段ナル差異ヲ來セル原因ニツキ同營林署ノ發表セル所ニヨレバ次ノ通りデア

やしやぶし

- 一、萌芽力稍弱ク山植ノ如ク急速ニ土地ヲ被覆セザル場合ガ多イ。
- 二、細根ハ山植ヨリ少ナキモ生長スルニ從ヒ喬木性ヲ發揮シテ深ク内部ニ侵入シ、表土ト基岩ノ連絡ヲ安全ニス。而シ其土砂崩壞防止ノ效果ハ相當年月經過後ニアラザレバ顯ハレテ來ナイ。
- 三、土砂扞止ノ效果ハ漸進ニシテ遲效的デアアル。

ル。

- 一、森林ノ鬱閉ヲ密ニシ夏ノ灼熱燒クガ如キ日光ヲ遮リテ林地ニ庇蔭ヲ與へ、年降水量ノ大部分ガ降下スル生長期ノ降雨ヲ土壌ニ保留シ、以テ松ニ吸收利用セシメタルコト。
- 二、前記土壌ノ保水力ノ増加ハ以テ土壌微生物ヲ増加セシメ、又土壌ノ粘土微砂ノ如キ微粒子並ニ可溶性物質其他ノ土壌性質ヲ有利ニ展開シテ間接ニ林木ニ利益ヲ與ヘシ事。
- 三、前記土壌微生物ノ増加繁殖ハ炭酸瓦斯ノ發存量ヲ増加セシメ以テ松ノ炭素同化作用ヲ盛ンシ、松ノ體內ニ多量ノ炭水化物ヲ合成セシメシコト。
- 四、根瘤菌ニヨリ盛ニ空中ノ遊離窒素ヲ攝取同化シ之ヲ主トシテ落葉ヲ通ジテ松ニ供給シタルコト。
- 五、前記落葉ハ腐植質ヲ生ジ土壤ノ理化學性ヲ改良シタルコト。
- 六、はげしぱりノ窒素ニ富ム落葉ガ松ノ落葉ノ分解ヲ促シ肥沃度ヲ更ニ増加シタルコト。
- 七、松ノ體內ニ生ジタル澱粉、蔗糖ノ如キ松ノ榮養トナルベキ多量ノ炭水化物ノ量ニ對シテ割合ニ窒素ノ量ヲ増加セシメ、以テ松ノ體內ニ蓄積セラレタル多量ノ榮養ヲ開花結實ノ如キ生殖器官ノ發育ニ多ク使用セシメズシテ、樹幹枝葉ノ如キ榮養器官ノ旺盛ナル生長ニ大部分消費セシメシコト。
- 八、松トはげしぱりトノ共存ニ依ツテ嫌地性ヲ銷磨シ却テ直接又ハ間接ニ松ノ生長ヲ促進シタルコト。

等ニヨルナランモ其效果ノ實際ヲ確知スルタメ、最近當署沿海地方柳谷國有林84ノ於テ明治三十六年三月はげしぱり砂防植栽地ニ同年度天然下種セル二十九年赤松ト、同國有林ニ於テ當時七年生稚樹ノ發生シ居ルモ砂防植栽ヲ實施セザル往時ノ優良林分デアツタ現在三十五年生赤松トニ就キ、各標準木ヲ取り樹幹析解ニヨリ其生長量ヲ比較セルニ、材積生長ニ於テ約二七

倍ノ格段ナル生長量ノ差異ヲ現ハシテ居ルヲ確メタトノ事デアル。

森林ノ施肥ニ就テハ歐洲諸國ニ於テ既ニ十八世紀ノ中葉ヨリ森林肥料説ガ論議セラレ、普通林業ニ對スル施肥ハ暫ラク別問題トシ荒廢林地又ハ瘠惡林地ニ對シテ造林上施肥ノ有效ナルハ誰シモ反對スルモノハアルマイ、況ヤ近時一部學者間ニ一般林業ニ對スル肥料説ヲ唱道セラレ、モノアルニ於テチヤデアル。而シテ往年廣島縣西條營林署ニ於テひめやしやぶし及やしやぶし等ニ就キ簡單ナル肥料試驗ヲ行ツタガ、其結果同地方ニ於テハ大體次ノ結論ガ得ラル、様デアル。(同試驗ハ大正十三年四月植付タルモノニ付十四年十五年調査セル結果ヲ發表セルモノデアル)。

一、ひめやしやぶしノ幹長最モ長キハ過磷酸倍量施用區ニシテ普通量施用區之ニ次ギ、硫酸加里ハ却ツテ上長成育ヲ妨ゲ、石灰有機物硫酸等ハ何レモ其成長ヲ促進シ、肥料ノ反應酸性ナルトキハ石灰ヲ以テ中和シタルモノヨリモ劣ルヲ見ル。

二、枝條數ハ殆ンド幹長ニ正比例シ、磷酸倍量區最モ多ク、之ニ次グハ中和完全區、有機物加用中和完全區、磷酸區ノ順序ニシテ硫酸加里區ハ無肥料區ト殆ンド同數デアル。

三、根長ハ有機物施用區最長ニシテ磷酸倍量區完全肥料區等順次之ニ次ギ、硫酸加里ハ其效果極メテ少ナキヲ見ル。

四、根瘤數ハ中和完全區最多(但シ小粒)ニシテ磷酸倍量區、磷酸區、有機物加用區等順次之ニ次ギ、硫酸、硫酸加里、有機物石灰ハ何レモ其生成ヲ妨ゲル。

五、風幹根重量ハ磷酸倍量區最多ニシテ有機物加用及中和完全區之ニ次ギ、硫酸、硫酸加里ハ却ツテ無肥料區ニ劣リ、稻藁及石灰ハ相當ノ肥效ヲ現ハス、殊ニ酸性肥料配合ノ場合石灰加用ノ效果著シキヲ見ル。

六、要スルニひめやしやぶしノ成育促進上效果偉大ニシテ、而モ經濟的肥料ハ過磷酸石灰ナルヲ知ル。

以上ノ如キ試驗成績ナルモ亦砂防植栽現地ニツキ試驗セル結果ハ大要次ノ如キ結論ガ得ラルル様デアル。

一、やしやぶし及ひめやしやぶし共過磷酸ノ肥效最モ偉大ニシテ、之ニ次グハ完全肥料ナレドモ完全肥料ハ過磷酸ニ比シ數倍高價ニシテ、且ツ良品ヲ得ルコト比較的困難ナルヲ以テ大事業ニ施用スル肥料トシテハ經濟上技術上過磷酸ハ最モ適當デアラウ。

二、過磷酸ノ施用量ヲ増加スルニ從ツテ概ネ生育旺盛トナルハ明カナルモ、之レガ適量並施用時期回数如何等ハ更ニ研究ヲ要スル。

三、施肥ハ基肥トシテ施用スルヨリハ根部ノ充分發達スルヲ俟ツテ追肥トシテ施用スル方肥料ノ損耗少ナク安全且ツ有利ナルガ如シ。

四、土壤ノ酸性反應ヲ中和シ生長ヲ促進セシムル目的ニテ炭酸石灰單用試驗ヲ行ヒタルモ豫期セシ程ニ生育促進上效果ナキヲ知ツタ。

五、ひめやしやぶし、やしやぶしノ肥料トシテ過磷酸ノ有效ナルハ、過磷酸石灰ハ土壤ノ酸性ヲ中和シ且ツ磷酸ヲ供給スルニヨリ根瘤菌ヲ發達セシムルニ有效ナルニアラザルカ、即チ「施肥ノ原野草類ニ及ボス影響ニ就テ」ト題シ林業試驗場大迫技師ノ報告ニヨレバ肥料配合ノ如何ニヨリ優生草種ニ盛衰アリテ在來草種間ニ變化ヲ來タシ、窒素肥料ヲ與フレバ原野ノ禾本科植物ヲ増シ、磷酸肥料ヲ與フレバ根瘤植物タル豆科草類ヲ増ス(林業試驗彙報第二十號)ト云フコトデアル。磷酸其モノガ兩樹種ノ枝葉發達ニ直接有效ナラズトスルモ、根瘤ノ發達並生理的作用ヲ良好ナラシメ間接ニ無限ノ窒素ヲ攝取シ得ルニアラザルカ。

六、施肥ニヨリ砂防工事費ヲ節減セシムルコトヲ得タ、即チ在來ノ山腹工事ノ工種ハ主トシテ張芝工デアツタガ施肥ニヨリ植栽木ノ生長ヲ促進セシメ林地ヲ速ニ鬱閉セシムルカラ高價ナル切芝ヲ半減セシメ得ル藁積苗工ヲ採用スルニ至リタルコト及

階段距離ヲ増シ、苗間距離ヲ大ナラシメタルニヨリ肥料代ヲ支辨シ、階段切込ヲ廣クシテ尙ホ單位面積當工費ノ二割乃至三割ヲ節約シ得ルコト、ナツタ、茲ニ注意スベキハ當地方ノ如ク夏季旱天ノ永ク續ク處ニ於テハ張芝工必ズシモ堅牢デナイ、林地ノ閉鎖遲緩ナル時ハ旱魃ノ爲メニ數年ニ一度ハ張芝ノ全部枯死スル事ガアル、コレニ反シ藁積苗工デハ藁ニテ濕氣ヲ保留スルニヨリ積芝ノ枯死スルコト殆ンド無イ、結局張芝工ヨリ脆弱ナ様デモ事實堅牢ナ結果ヲ招來スルノデアル。

七、施肥ニヨリテ兎害ヲ免ル、事ヲ得タ。無施肥時代ニハ生育遲緩ナリシ爲メ兎害多カリシモ生育旺盛トナレバ兎害ニヨリ植栽木ヲ全滅セシムル惧レ更ニ無キニ至ツタ。

第六 利用狀況

廣狹幅ノ髓線混合放射スル散孔材ニシテ、其ノ色ハ伐採當時白黃色ナルモ時日ヲ經ルニ從ヒ淡紅褐色ヲ呈スル、而シテ心材ハ之ヲ缺テ居ル。材質硬重ニシテやしやぶしヨリ稍硬ク、氣乾比重〇・七〇、一立方尺ノ重量氣乾材ニテ五・一九貫デアル。薪材トスルモ火力弱ク他ノくぬぎ、こならノ如キ用途ハ無イ、又大津營林署ノ實驗ニヨレバ之ヲ木炭トスル時ハ外見良好ナルモ保火力少ナク一般市場ニ於テ歡迎セラレメトノ事デアル、而シ香川縣地方ニ於テハ黒炭トナシ收炭歩合一割五分アリ十年生内外ヲ以テ適當ノ伐採年齡トシテ居ル。

要スルニ此樹ハ生長早く乾燥瘠惡ノ地ニモ堪ヘ、發育良好ニシテ枝條ヲ密生シ、三、四年間ニ鬱閉シ加フルニ萌芽性强ク能ク土砂ヲ被覆シ土砂扞止ノ作用最モ大ナルガ故、一時此樹ヲ以テ土砂扞止シ其間ニ松其他ノ優良樹ヲ植エルニ適スル、而カ

モ植付後十年乃至十五年ヲ經テ第一回ノ伐採ヲ行ヒ、其後八年乃至十二年毎ニ伐採シテ日用ノ薪炭ニ供シ得ルノデアル。斯クノ如キガ故ニ最モ砂防植栽ニ喜バル、所以デ此樹ノ生命ハ此處ニアリト言フ事ガ出來ル。

後編 やしやぶし

第一 樹名

やしやぶしハ樺木科はんのき屬ニシテ *Abies firma*, Sieb. et Zucc. ナル學名ヲ有シ漢名夜叉、又ハ夜叉附子ト稱シ更ニ地方ニヨリ左ノ如キ方言ガアル。

ハゲシバリ、秋田縣(北秋田郡、雄勝郡)、岡山縣(備前備中地方)、愛媛縣(東豫、中豫地方)、島根縣(出雲、石見地方)、新潟、三重、滋賀、和歌山、香川、高知ノ各縣。ヤシヤ、京都府(丹波地方)、大阪府(攝津地方)、兵庫縣(丹波、攝津地方)、埼玉、靜岡、三重、茨城ノ各縣。イワシバ、青森縣(東津輕郡、南津輕郡)、岩手縣(和賀郡)。ユワシバ、青森縣(東津輕郡、南津輕郡)。ハキシバリ、秋田縣(北秋田郡)。イハバ、山形縣(北村山郡)、茨城縣。ネハリシバ、兵庫縣(播磨地方)。ヤナイデ、鳥取縣(伯耆地方)。カハラシデ、鳥取縣。ハゲラカクシ、鳥取縣(因幡地方)。ツチシバリ、兵庫縣(但馬地方)。ガケバリ、石川縣(能登地方)。ヤシヤヒシヤク、富山縣(越中地方)。ハゼ、神井縣(越前地方)。ソウバル、長崎縣(南高來郡)。ヤシヤボツチ、埼玉縣。ヤシヤノキ、東京府(郡部)、靜岡縣(伊豆地方)。ハンノキ、東京府(大島)。ハイノキ、東京府(八丈島)。アヅマ、神奈川縣(箱根地方)、山梨縣。キブシノキ、長野縣。ヤシヤブシヤ、長野縣。ヤシヤビシヤ、靜岡縣(伊豆、遠江地方)。ブナ、ヤシヤブナ、

静岡縣(伊豆地方)。オホバミネバリ、ハルノキ、静岡縣(遠江地方)。ヤシヤンボ、カワウブシ、静岡縣(駿河地方)。オホバヤシヤブシ、廣島縣。オハグロノキ、茨城縣。ヤシヤグス、徳島縣、愛媛縣(東豫地方)。ハゲ、愛媛縣(東豫地方)。サウバリ、熊本縣、フシノキ、茨城縣、栃木縣、キブシ、山梨縣、フシ、山梨縣、茨城縣、オニヤシヤブシ、オニヤシヤ、朝鮮。

第二性 狀

温帯ノ南部ヨリ暖帯ニ多ク生ズル落葉半喬木デ、葉ハ二列ニ互生シ長卵形又ハ卵披針形、長サ三寸乃至四寸(九・一乃至一二・〇)幅八分乃至一寸五分(二・四乃至四・五)頭部尖リ脚不正圓形、鋸齒ハ不整ニシテ往々重鋸齒ヲ爲シ、表面深綠色デ主脈上並ニ側脈間ニ少シク毛ヲ生ジ、裏面ハ帶青白色ニシテ細毛ヲ生ジテ居ル。側脈ハ普通十五、六雙表面ニ凹陷シテ下面ニ隆起シ、鋸齒頭ニ直走シテ分岐スル事少ナイ。葉柄ハ三分乃至一寸(〇・九乃至三・〇)ニシテ細毛アリ、托葉ハ披針形ニシテ稍久シク殘存シテ居ル。

毬果ハはんのきヨリ少シ大ニシテ五十乃至六十ノ鱗片ヨリ成リ、一升(一・八立)ノ重量八九十匁(〇・三乃至〇・三四)粒數三十萬ヲ算スル、而シテ一升ノ種子ヲ得ルニハ毬果七、八升(一二・七乃至一四・四立)ヲ要スル。

根ハ纖根ニシテ生長スルニ從ヒ深ク地中ニ入り、土地ノ崩壞ヲ防グニ適スル、而シテ根ノ一部ニ「バクテリア」ヨリ成ル疣狀ノ小塊アリ、空中ノ遊離窒素ヲ採リテ含窒素養成分トナシ、植物ニ供給スル源泉トナルモノノ如クデアル。

樹ハ甚ダ陽性ニシテ赤裸地、河原其他雜草ノ生ジ能ハザル如キ瘠地ニモ能ク生育スル、而シ雜草笹其他ノ樹種ノ繁茂スル中ニアリテハ陽光不足ノ爲被厭木トナリテ生育スル事ガ出來ナイ。一般ニ高燥ニシテ風通ヨキ地ニ生長スルモノデアルガ、樹幹ノ長大ナルモノ少ナク、高サ三十尺(九・一米)胸高直徑一尺(三〇・三)ニ達スルニ過ギナイ。毎年多數ノ新梢ヲ發生シ叢狀

ヲナスモノ多ク、生長甚ダ速デアル。

樹皮ハ灰褐色又ハ暗灰褐色ヲ呈シ、硬クシテ厚イ。

第三 分布 狀 況

やしやぶしハ温帯ノ南部ヨリ暖帯地方ニ多ク、本州、四國、九州等ニ自生シ、八丈島ニハ多ク栽培セラレ桑ト混淆林ヲナシテ薪炭材ヲ出シ、又駿河、伊豆ノ諸山ニハ薪材或ハ毬果採集用トシテ植栽セラレテ居ル、特ニ賀茂郡岩科村ヲ中心トシテ行ハル、薪炭林業ハ名高キモノデ今日南伊豆地方一帶ニ廣ガツテ居ル。

此樹ハ赤松、ひめやしやぶし等ト共ニ砂防植栽トシテ最も多ク用キラル、樹種デ、静岡、山口、廣島、香川及愛媛等ノ各縣ヲ筆頭トシ山梨、岐阜、滋賀及熊本ノ各縣之ニ次ギ鳥取、茨城、千葉、栃木、兵庫、福井、高知、島根、福岡、大分及岡山等ノ順序デアルガ、尙ホ各地トモ年々ノ造林本數ハ増加ノ傾向ヲ有シ、其分布區域モ増大シツ、アル現況ニアル。

朝鮮ニ於テモ砂防植栽トシテ相當用キラレテ居ルガ、寒害ノ爲メ京城以北ニハ成林困難デ、慶尙南道、慶尙北道、全羅南道及全羅北道等ニ於テ最も多ク植栽セラレ、忠清南道、忠清北道及京畿道等ニ於テモ幾分造林サレテ居ル。而シテ明治四十五年全羅北道ニ於テ植栽シタルヲ嚙矢トシ其他朝鮮各道ニ植栽シ始メタルハ大正十三年以後デアル。

第四 苗木生産狀況

やしやぶし苗ハひめやしやぶし及赤松ト共ニ砂防植栽用トシテ、最も需要ノ多キモノデ年々増加ノ趨勢ヲ示シテ居ルガ、其栽培最モ古ク且ツ最も多量ニ産出スルハ滋賀縣甲賀郡根村地方ニシテ、從來各府縣ニ於テ行ハレタル荒廢林地復舊事業用植

栽樹トシテ其大部分ハ本地方ノ生産苗デアル、(各府縣成績事例中樹苗ノ產地欄参照)、而シ近年ニ至リ香川、廣島及靜岡ノ諸縣ニ於テモ其生産ヲ増加シテ來タ。

昭和八年春季ニ於ケルやしやぶし苗ノ生産數量ハ實ニ一千八十餘萬本ヲ突破シ、内民間生産四百五十餘萬本ニシテ滋賀ノ百七十萬本ヲ首トシ、神奈川六十萬本、香川五十四萬本、靜岡、廣島ノ各四十五萬本、愛媛三十萬本、山口ノ二十一萬本等順次之ニ次ギ、茨城、鳥取、千葉、大阪等ノ各府縣ニ於テモ相當ノ生産ガアル、而シテ近年ニ於ケル需給狀況ヲ示セバ次ノ通りデアル。

地方	昭和五年			昭和六年		
	生産數	需要數	移出數	生産數	需要數	移出數
各府縣	四、四九、四四〇	三、三四、一七六	二、四七、〇〇〇	四、六〇、二二二	二、六八、五〇三	二、九一、〇〇〇
各營林局	一一、六〇〇、七七〇	九一〇、四七〇	一、六九〇、〇〇〇	三、三八、八〇〇	一、三三、八〇〇	一一、〇〇〇、〇〇〇
計	七、一〇〇、二一〇	四、二四、六四六	四、一八七、〇〇〇	七、八九、〇二二	三、九三、三〇三	四、六一、〇〇〇
地方	昭和七年			昭和八年(見込)		
	生産數	需要數	移出數	生産數	需要數	移出數
各府縣	四、八三、五二〇	二、五二、六八〇	二、八九〇、〇〇〇	四、五〇、四四〇	四、三〇、八六六	一、九六、〇〇〇
各營林局	四、一四、八〇〇	三、三四、八〇〇	八〇〇、〇〇〇	六、三四、一〇〇	三、五九、一〇〇	二、七〇、〇〇〇
計	九、〇〇、三二〇	六、八七、三二〇	三、六九〇、〇〇〇	一〇、八四、五四〇	七、八九、九六六	四、七六、〇〇〇

注意 各營林局ノ生産數ニハ民間ノ生産ヲ含マズ。

朝鮮ニ於テハ從來やしやぶし、ひめやしやぶし苗ノ移入頗ル多カッタガ、近年ハ鮮内ニ於テ良苗ヲ産スルニ至リ昭和六年ニ於ケルやしやぶし苗ノ生産ハ約五百萬本ニ達シテ居ル、而シテ其最モ多キハ慶尙北道ノ三百餘萬本ヲ首トシ、慶尙南道ノ百餘萬本之ニ次ギ更ニ全羅北道、全羅南道等ニ於テモ三四十萬本宛ヲ生産スルニ至ツタ。
やしやぶし苗ノ養成法ハひめやしやぶし苗ノ養成法ト同様ナルヲ以テ前編ひめやしやぶし砂防植栽成績中第四節ニ就キ參照セラレタイ。

第五 砂防植栽ノ成績

荒廢林復舊工事地(各府縣)、砂防植栽及砂防設備地(各營林局)等ニ於ケルやしやぶしノ植栽成績ハ、本書掲載植栽事例總計四十五ヶ所面積一三・〇八陌ヲ全國總施工面積ニ比シ至ツテ少ナク之ヲ以テ一樣ニ論ジ難キモ、地質其他ノ關係ニヨリ成績ノ劣レル所少數ヲ除キ何レモ良好能ク砂防植栽ノ目的ヲ達シテ居ル、今便宜上之ヲ成績ノ良否ニ分ケ概要ヲ記述シヤウ。
成績良好地ニ於テハ海拔高一〇三〇米(山梨)ヲ最高トシ海岸ニ乃至三米(宮城)ノ所ヲ最低トシテ居ルガ、平均二、三百米ノ所ガ多ク海拔高ノ如何ハ一概ニ論ジ難キモ比較的低位所ニ於テ成績ノ良好ナルガ多イ様デアル、又地質上ヨリ見ル時ハ花崗岩ヲ基岩トスルモノ三割ヲ占メ、砂岩、頁岩、安山岩等之ニ次デ居ル。植栽面積ハ最大三〇陌(滋賀)、最小〇・二六陌(熊本)平均三・一三陌デアルガ大部分ハ二陌以下ノ小面積ノモノガ多イ。更ニ樹齡ハ植栽后僅カ二年(宮城)ノモノヨリ最老二十五年(愛知)ニ至リ平均十年デ總數ノ六割ハ十年以下ノモノデ何レモ若ク、植栽本數モ一定シ居ラザルモノ一陌宛二千本(島根)ヲ最小數トシ最大一萬六千五百本(栃木)ニ達スルモノアリ、平均六千二百餘本デアル、而シテ其ノ多クハ黒松、赤松、山楡、にせあ

かしあ、やまはんのき等ノ混植デ、其ノ三分ノ一ハ黒松デアアル。尙ホ現在本數ヲ見ルニ一陌千五百本(島根)ヲ最小トシ、最大一萬二百六十本(福島)平均四千二百五十六本ニ當ツテ居ル、而シテ植栽當時ノ本數ニ比シテ現在本數ノ割合ヲ見ルニ二三% (福岡)最少ナク九五% (福島、大分)ヲ最大トシ、平均六九%ニ當ツテ居ルガ、相當ノ樹齡ニ達シ伐採セルモノノ如キハ、萌芽セル結果植付本數ヨリ著シク増加セルモノモアル(静岡ノ例)。次ニ荒廢復舊工事施行地ハ地味瘠惡ナル場合多キ爲メ植栽ニ當ツテ基肥ヲ施シ又ハ追肥ヲ行フ等肥料ヲ施セルモノ其ノ半數ニ達シテ居ルガ半數ハ無肥料ノ所デアアル、而シテ肥料ノ種類ハ糞、木灰、糞灰、過燐酸石灰、豆粕、鶏糞、完全肥料、菜種油粕等幾多ノ種類ヲ用ヒテ居ルガ、糞最モ多ク約三割ヲ占メ、草木灰之ニ次デ居ル、更ニ施肥量ハ苗木一本ニ付糞二七五グラム草木灰五〇グラムニ當ツテ居ルガ其他凡テ平均スル時ハ六一グラムデアアル。次ニ生長狀況ニ就テ見ルニ直徑(胸高)生長ハ一一・五種(神奈川)、一一・〇種(愛知)等ニ達スルモノアルガ、僅カ一・〇種(宮城但シ樹齡二年)二・〇種(石川)ニ過ザルモノモアル、而シ平均六・六種ニ達シ、又高サニ於テハ一一・〇二米ヲ最高トシ〇・四米ヲ最低トシテ平均五・三米ニ達シ生長良好デアアル。

成績不良ナルモノニ就テハ最高海拔二二〇〇米(山梨)ヨリ最低六〇米(静岡)平均四二九米ノ高地デ、花崗岩系ニ屬スル個所ハ三割ヲ占メテ居ル。植栽面積ハ最大一〇陌(愛知)最小〇・三〇陌(廣島)平均一・九六陌デ比較的小面積ノ所ガ多イ。樹齡ハ最高三〇年(愛知)最低五年(神奈川、千葉等)平均二二年弱デ、植付本數ハ最モ多キハ一陌宛一萬五千本(滋賀)ニ達シ、少ナキハ一千二百本(神奈川)ニ足ラザルモ多クハ他樹種トノ混植デアアル、而シテ平均五六八本デ、混植樹種トシテハ黒松、赤松、山欖等デアアルガ黒松最モ多イ。更ニ現在本數ハ最モ不良ナルハ枯損其他ニヨリ皆無ニ歸シタ所アルモ、最大數ハ六、五〇〇本(滋賀)ニシテ平均二二六〇本デアアル、而シテ植付當時ノ本數ニ比シテ現在本數ノ割合ヲ見ルニ、現在皆無ノ所ハ例外トシ二分五厘(兵庫)ヲ最小トシ、八割五分(大分)ヲ最大トシ平均僅カ四割ヲ存スルニ過ギナイ。

肥料ヲ施セルモノハ六割餘ヲ占メテ居ルガ糞最モ多ク、次デ草木灰、糞灰、過燐酸石灰、鶏糞等ノ順デ施肥量總平均ハ一本宛六〇グラムニ當ツテ居ル。
次ニ各個所別ニツキ成績ノ良好ナルモノ及不良ナルモノニ別ケ掲記スレバ次ノ通りデアアル。

一 成績良好ナル個所

宮 城 縣

植 栽 個 所	牡鹿郡石巻町東中濱國有林45い。
地 形 及 海 拔 高	海拔二一三米海岸砂地ニシテ多少凹凸アルモ一般ニ平坦。
地 質 及 土 壤	沖積層ニシテ全砂土、泥氣及鹽分共ニ少ナク、適潤地。
植 栽 面 積	一・二二ヘクタール。
植 栽 年 度	昭和七年。
植 栽 本 數	三、四六五本。
現 在 本 數	三、二七〇本。
種 苗 ノ 産 地	石巻苗圃。
施肥ノ種類及時期	完全肥料、春季。
施肥ノ分量及方法	春季植付ニ當リ苗木一本ニ八一五瓦宛施ス。
生育狀況	直徑大ナルハ一・五割普通〇・九割、高サ最大一・〇米普通〇・五米、鬱閉中。

手入保護及間伐ノ狀況

福島縣

根元陥没セルヲ根踏シ、尙ホ植栽當時西北位ニ立藁チナシ、更ニ砂土灼熱スル所ニハ雜草チ敷イ

植栽個所

地形及海拔

地質及土壤

植栽面積

植栽年度

植栽本數

現存本數

種苗ノ產地

施肥ノ種類及時期

施肥ノ分量及方法

生育狀況

手入保護及間伐ノ狀況

主伐及間伐木利用狀況

栃木縣

伊達郡柱澤村大字柱田字長作。

海拔二〇〇米、傾斜三〇度内外ノ丘陵狀チナセル山地テ、概シテ西ニ面シ風當リ強ク早秋ヨリ晩春マテ結氷甚シク、之ニ反シ晩春ヨリ早春迄ハ極度ニ乾燥スル所デアアル、耕地ヨリ二五〇米ノ所、基岩ハ花崗片麻岩ヨリ成リ、古來ヨリノ禿瘠地。土壤ハ石英粒ニ乏シク長石粒ニ富ミ、淺ク乾燥シ易キ砂土結合カ弱ク地味瘠惡。

一、九四ヘクタール。

昭和三年。

一〇、八〇〇本(芝筋、積苗工ニ伴フテ植付チナス)。

一〇、二六〇本。

滋賀縣甲賀郡岩根村。

木灰、糞、十二月植付當時。

植付ニ際シ苗木一本宛木灰八六瓦、糞東〇・三七宛宛施用シタ。

活着歩合良好ニシテ胸高直徑四種樹高四米ニ達シ、鬱閉密。根張稍不十分。

植栽後二年間ハ補植チ行ヒ、地被物チ採取セザル様嚴重取締チ行フ。

(薪材ニ利用ノ見込)。

那須郡高林村大字板室字鹽澤。

南東ニ面シ傾斜四五度、海拔高六五〇米、基礎工事トシテ山腹空積工並四枚積苗工チ施行セル所。基岩ハ砂岩及粘板岩、土壤ハ植實壤土ナルモ表土極メテ淺イ。

〇・四五ヘクタール。

昭和三年春季。

一六、五〇〇本。

四、五〇〇本。

滋賀縣産種子チ河内郡古里村苗圃ニテ養成ス。

直徑六一七種、樹高七米ニ達スルモノアルモ普通ハ五―六米デアアル、鬱閉密。

生育良好ニシテ極度ニ鬱閉セル爲昭和六年夏季本數ノ四割五分ノ間伐チ行ツタ。

右間伐木ハ其儘林地ニ放棄ス。

千葉縣

君津郡小糸村大字糸川、鎌瀧。

小糸川ノ支流域ニ屬シ大字糸川ハ東ヨリ西ニ向ツテ流レル本溪ト夫レヨリ南北ニ岐レル幾多ノ小溪チ有スル地域、大字鎌瀧ハ西ヨリ東ニ流レル、野溪テ山地ハ何レモ傾斜三五度乃至四五度チ以テ東、西及南北ニ向ツテ低下シテ居ル、海拔二〇〇米、天然雜木林地ニ散在スル崩壞地。

植栽個所

地形及海拔

地質及土壤

植栽面積

植栽年度

植栽本數

現存本數

種苗ノ產地

施肥ノ種類及時期

施肥ノ分量及方法

生育狀況

手入保護及間伐ノ狀況

主伐及間伐木利用狀況

千葉縣

植栽個所

地形及海拔

地質及土壤
 地質ハ第三紀層ニ屬シ、基岩ハ軟弱ノ頁岩ニシテ岩盤甚脆弱。土質ハ細粒ノ砂質壤土ニシテ風化土層淺ク結合カ弱イ。
 糸川分合計三・四三ヘクタール。鐵澱分合計〇・五七ヘクタール。
 大正十三年。
 三、三六〇本、(松ト混植ス)。
 二、〇二〇本。
 滋賀縣。
 藥、植栽直前。
 植栽前階段ノ一部ヲ掘リ一米ニ付糞一キログラム宛埋込ミ根肥トシタル以外施肥セズ。
 直径九割樹高二・七米。鬱閉密。
 混植セル松苗保護トシテ下刈チ行ツタ。其他各所有者チシテ施行セシム。
 凡テ薪材トス。

神奈川縣

津久井郡青根村字音久和。
 東南ニ面シ傾斜約四〇度、海拔高四二〇米、本ヶ所ハ桑園及畑地ニ接續シテ居ル。
 御坂層ニシテ主ニ鐵線凝灰岩一部堆積ノ個所ガアル、土壤ハ赤色壤土少量ノ砂混リ表土約〇・一米腐質少量アルモ未ダ分解ノ初期ニ屬スル。
 四・〇〇ヘクタール。

植栽年度 大正十四年。
 一植(クダール當) 本數 四、九〇〇本(外ニ黒松四、九〇〇本ト混植)。
 一植(クダール當) 本數 二、八五〇本。
 種苗ノ產地 滋賀縣。
 施肥ノ種類及時期 |
 施肥ノ分量及方法 |
 生育狀況 胸高直径五・二種、高サ五・五〇米、鬱閉適度。
 本ヶ所ハ黒松ト半々ノ混植地デ松ハ幼時ノ成長緩漫ノタメ「ヤシヤブシ」ノ被壓ヲ受ケ十分陽光ヲ受クルモノニ比シ高サニ於テ三分ノ二、直径ニ於テ二分ノ一ニ相當スル生育狀態デアル。尙ホ「ヤシヤブシ」ハ害蟲、損傷等ノタメ枯死セルモノ相當ニ多カリシモ現在ハ大體一齊林ノ狀態ヲ呈シテ居ル。

神奈川縣

中郡西秦野村堀山下子ノ神。
 南東ニ面シ傾斜三〇度―四〇度、海拔高四〇〇米乃至五〇〇米。
 第三紀層表土火山灰土、土壤ハ砂質壤土ニシテ表土ハ比較的腐植質ニ富テ居ル。
 〇・七一ヘクタール。
 大正十四年。

一(ク)タール當
植付 本 本
一(ク)タール當
現在 本 本
種苗ノ産地 數 數
施肥ノ種類及時期
施肥ノ分量及方法
生育狀況

新潟縣

五、〇〇〇本(外ニ黒松五、〇〇〇本ト混植)。
四、五一五本。
滋賀縣。
胸高直徑一一・五釐、高サ八・六米、鬱閉密。

植栽 個所
地形及海拔
地質及土壤
植栽面積
植栽年
一(ク)タール當
植付 本 本
一(ク)タール當
現在 本 本
種苗ノ産地 數 數
施肥ノ種類及時期

西頸城郡浦本村大字鬼伏字正知ヶ谷。
鬼伏川右岸ニ位シ傾斜三〇度内外、西南ニ面スル崩壊地、海拔二〇〇米ノ地點。
第三紀層ニ屬シ基岩ハ脆弱ナル頁岩ヨリ成リ、土壤ハ堆積壤土ニシテ深度一般ニ深ク地味肥沃アル。
一・七〇ヘクタール。
昭和五年。
一〇、〇〇〇本。
九、〇〇〇本。
滋賀縣甲賀郡。

施肥ノ分量及方法
生育狀況

石川縣

植栽 個所
地形及海拔
地質及土壤
植栽面積
植栽年
一(ク)タール當
植付 本 本
一(ク)タール當
現在 本 本
種苗ノ産地 數 數
施肥ノ種類及時期
施肥ノ分量及方法
生育狀況
手入保護及間伐ノ狀況
主伐及間伐木利用狀況

羽咋郡西増穂村字酒見。
四方ニ低下シ海拔六〇—一〇〇米ノ間ニアル禿裸地テ傾斜二五度内外、約五五〇米ノ所ニ耕地ガアル。
第三紀層ニ屬シ基岩ハ凝灰岩ニシテ眞土ハ母岩ノ腐植セルモノテ固ク、表土ハ之ガ風化セル埴土又ハ埴質壤土ナルモ甚ダ淺イ。
一・五七ヘクタール。
大正十四年三月。
六、五〇〇本。
四、〇〇〇株(八、六〇〇本トナル)。
種子ハ滋賀縣甲賀郡産ニシテ苗木ハ羽咋郡東土田村縣苗圃ニテ養成ス。
薬、施工當時。
苗木一本ニ付一・一一冠宛ノ割合ニテ連束薬ヲ作リテ之ヲ埋没シ、其上方ニ接シテ苗木ヲ植栽シタモノデアアル。
平均直徑四・七釐、樹高平均五・五米、鬱閉密。
植栽後四五年ニシテ鬱閉シ、松天然生ヲ被壓シ成育ヲ阻害スルコト甚シキニヨリ本樹ヲ伐採シテ薪材ニ利用シ、將來松林トスル目的デアアル。

石川縣

植栽 地形及海拔高

江沼郡福田村大字上木字砂濱國有林46いノ内。日本海岸砂丘地傾斜五度、海拔高二〇米。砂地。

地質及土壤

一・〇〇ヘクタール。

植栽面積

大正十一年三月。

植栽年度

二・〇〇〇本。

現存本數

二〇〇本。

種苗ノ產地

滋賀縣。

施肥ノ種類及時期

根廻直径六・〇糎樹高〇・四〇米、散生。

生育狀況

――

地質及土壤

――

福井縣

植栽 地形及海拔高

遠敷郡知三村虫鹿野ノ内出合第十八號銅窪一ノ二。海拔八〇〇米、南方ニ向ツテ三〇乃至三五度ノ傾斜ヲナシ南川水源地域ニ位シテ居ル。

地質及土壤

地質ハ秩父古生層ニ屬シ、其實績メテ脆弱又土壤ハ填土ニシテ凝聚力ニ乏シク瘠惡、崩壊シ易キ所デアル。

植栽面積

一・〇〇ヘクタール。

植栽年度

大正十三、十四年兩年度。

現存本數

九、〇〇〇本。

種苗ノ產地

七、〇〇〇本。

施肥ノ種類及時期

滋賀縣甲賀郡岩根村。

施肥ノ分量及方法

――

生育狀況

生育良好ニシテ直径五糎、高サ三・五米ニ達シ、鬱閉密。

主伐及間伐木利用狀況

既ニ間伐時期ニ達セルモ未ダ施行シナイ。

山梨縣

植栽 地形及海拔高

中巨摩郡清川村大字上菅澤字崩澤。

地質及土壤

西方ニ面スル山麓ア下部ハ澤ニ接シ、傾斜三五―三七度海拔一、〇三〇米、而シテ本ヶ所ノ上部ニ水田ガ在ル。

植栽面積

火山灰砂及安山岩屑ヲ交フル砂礫土並ニ凝灰質集塊岩、砂礫土上部ヲ占メ其實輕鬆、粘着力小、雨水透過シ易イ。

〇・四四ヘクタール。

植 栽 一ヘクタール當 本年 度
 一ヘクタール當 付 本 本 數 數
 現 在 本 本 數 數
 種 苗 ノ 産 地 數
 施 肥 ノ 種 類 及 時 期
 施 肥 ノ 分 量 及 方 法
 生 育 狀 況
 手 入 保 護 及 間 伐 ノ 狀 況
 主 伐 及 間 伐 木 利 用 狀 況

靜岡縣

大正四年四月、
 一二、〇〇〇本。
 五、〇〇〇本。
 中巨摩郡野々瀬村。
 平均胸高直径八種、平均樹高一〇・二米、鬱閉中。
 植栽後保安林ニ編入サレテヨリ伐採スルコト無ク僅カニ障害トナルベキ蔓切チナス程度テ、植栽木ノ生育ニツキ保護セルノミ。
 (近々主伐木伐採シテ炭材トシテ利用スル見込)。



昭和八年二月撮影

植 栽 一ヘクタール當 本年 度
 一ヘクタール當 付 本 本 數 數
 現 在 本 本 數 數
 種 苗 ノ 産 地 數
 施 肥 ノ 種 類 及 時 期
 施 肥 ノ 分 量 及 方 法
 生 育 狀 況

靜岡縣

縣

滋賀縣。
 三、〇〇〇本(外ニ松ヲ混植セルモノヲ松二本ニ對シ本樹一本ノ割ニ植栽セルモノ)。
 七、〇〇〇本(萌芽ニヨル本數)。
 平均直径七・五種、平均樹高六・五米、松トノ混植ニシテ完全ニ鬱閉シテ居ル。
 駿東郡小山町大字湯船字中平。
 海拔高三六〇米乃至四三〇米ノ所テ西南ニ面シ傾斜三〇度内外ノ所。
 第三紀層ニ屬シ富士火山灰ノ厚層ヲ以テ覆ハレ、土質緻メテ堅密デアル。(局部的ニ富士火山砂ノ厚サ一乃至二米ニ堆積セル所カアル)。
 〇・三二ヘクタール。
 大正十三年。
 七、四四〇本。
 二、九〇〇本。
 縣内。

施肥ノ分量及方法
生育狀況

平均直徑三〇釐平均樹高四・
三米、完全ニ鬱閉シテ居ル。

縣

植栽個所

地形及海拔高

地質及土壤

植栽面積

植栽年度

植栽本數

現存本數

種苗ノ產地

施肥ノ種類及時期

施肥ノ分量及方法

生育狀況

手入保護及間伐ノ狀況

愛知縣幡山村大字山日子海上、
北面傾斜二五度、山頂部、海
拔高三九〇米。
花崗岩、砂質壤土、深度中結
合度軟、濕度適潤。
五・〇〇ヘクタール。
大正四年度。
六、〇〇〇本（筋工一米ニ付
二本ノ割）
四、八〇〇本。
滋賀縣甲賀郡。
稻藁、藁灰及鶏糞、植栽ノ時。
稻藁筋工一米ニ付二疋藁灰苗木一本ニ付八〇瓦、鶏糞七五瓦當施用ス、尙大正六年春季鶏糞ヲ苗
木一本ニ付七五瓦當追肥シタ。
平均直徑一・〇釐、平均樹高八・〇米鬱閉密、同階段ニ混植シタル黒松ハ全ク被壓サレ枯死シタ
ルモノ甚多イ。
大正十四年第一回ノ除伐ヲ行ヒ約二割ヲ伐採シタ。
階段中〇・六米トシ前部ニ薄株及萩苗ヲ混植シ、其后方ニ藁ヲ敷込一米ニ付黒松一本ヤシヤブシ
二本ノ割ニ植栽シタルガ、ヤシヤブシハ植栽ノ時摘枝斷根ヲナシタ。



昭和七年四月撮影 静岡縣駿東郡小山町

愛知縣

植栽個所

地形及海拔高

地質及土壤

植栽面積

植栽年度

植栽本數

現存本數

種苗ノ產地

施肥ノ種類及時期

施肥ノ分量及方法

生育狀況

手入保護及間伐ノ狀況

東春日井郡坂下町大字廻間字寺木。
西南ニ面シ傾斜二五度内外中腹ヨリ山麓ニ亘ツテ居ル、海拔高一一〇米。
第三紀新層、砂礫土、深度淺、結合度堅、濕度適潤。
二・〇〇ヘクタール。
明治四十一年。
五、〇〇〇本（筋工一米ニ付一・五本ノ割）。
約二、五〇〇本。
滋賀縣甲賀郡。
稻藁、藁灰及鶏糞、植栽ノ時。
植栽ノ時基肥トシテ筋工一米ニ付二疋藁ノ稻藁、及苗木一本ニ付藁灰八〇瓦當鶏糞七五瓦ヲ施用
シタ、尙追肥ヲナセルモ其分量不明。
平均直徑一二釐、平均樹高五・〇米、鬱閉密。黒松ハ被壓セラレヤシヤブシノミ生育良好デアル。

筋工階段幅〇・六米トシ階段前部ニ薄株及萩苗ヲ混シ水平階段外角ヨリ〇・一八米ヲ退キ斜ニ植付
後部ニ連束藁ヲ埋込ミ中間ニ黒松及ヤシヤブシヲ一米當各一・五本ヲ混植シタ。

愛知縣

植栽個所 額田郡幸田村大字長嶺字樋口。 地形及海拔高 東向、傾斜一八度、山腹、海拔高一五〇米。 地質及土壤 花崗岩、砂質壤土、深度中、結合度軟、濕度潤。 植栽面積積 〇・二五ヘクタール。 大正十一年。 植栽年數 二、四〇〇本(筋工一米ニ付一本ノ割)。 植栽付當 一、九二〇本。 現存本數 滋賀縣甲賀郡。 種苗ノ產地 稻葉及鶏糞、植栽ノ時。 施肥ノ種類及時期 基肥トシテ稻葉筋工一米ニ付一・一三担、鶏糞苗木一本ニ付七五瓦當施用。大正十四年ニ追肥トシテ鶏糞苗木一本當七五瓦施用ス。 生育狀況 平均直徑一・〇〇釐、平均樹高四・三米、鬱閉密、黒松ハ被壓サレテやしやぶしノミ成育旺盛。 手入保護及間伐ノ狀況 大正十四年度薄萩ノ刈取リチ行ツタ。 筋工階段幅〇・六米、前端ニ薄萩チ混植。其後方ニ藁チ敷込ミ、中間ニ黒松及やしやぶしチ一米當各一本チ植栽ス。

滋賀縣

植栽個所 甲賀郡信樂町大字神山字三郷山、國有林第七林班ヨリ第二十二林班ニ亙リ點在セル禿裸地テ、大正十年マテ内務省ニテ施工セル所テアル。此所ニハ營林署ニテ施工以來ノモノチ掲記スル。大正十年ヨリ北ニ細長ク連リテ傾斜チナセル園地テ幾多ノ褶曲起伏チ有スルモ概ネ南北ニ走ル峰筋ヨリ東又ハ西ニ向ヒ傾斜一五度乃至三〇度内外ノ所。海拔高ハ三〇〇乃至七〇〇米。 地質及土壤 基岩ハ花崗岩ニシテ表土淺ク地表下ニハ凝結堅密ナル粘土層チナシ、土壤ハ概ネ粗礫ニ富ム赤褐色又ハ白色ノ埴土ニシテ、一部礫チ含ム粘質砂土ノ所モアル。 約三〇・〇〇ヘクタール。 大正十一年度ヨリ昭和六年度迄。 約一五、〇〇〇本(一米ノ階段ニ二本―三本ノ「ヤシヤアシ」及「ヒメヤシヤアシ」チ交互ニ植栽シタ) 一二、〇〇〇本。 滋賀縣甲賀郡。 種苗ノ產地 過燐酸石灰、基肥ハ植栽同時、追肥ハ七月頃葉。 施肥ノ種類及時期 苗木一本ニ付基肥トシテ三七瓦、追肥トシテモ同量チ施シタ、施肥ノ方法ハ苗木チ中心トシテ直徑三〇米内外ノ半圓狀ニ撒布シ、又藁ハ工事ノ上部地味不良ノ個所ニ〇・三七担チ施シ工事ノ時埋込ミタルモノテアル。 生育狀況 生育ヨロシク植栽後二年ニシテ二乃至三米ニ達シ五、六年ニシテ高サ六乃至七米直徑三釐ニ達シ鬱閉ハ密。 薪炭材トシテ利用シ他ノ雜木ニ比シ價值高ク愛用サレテ居ル。

兵庫縣

印南郡東志方村畑字北山。 本ヶ所ハ十數ヶ所ノ禿地ニ施工セル所ア山麓ヨリ山頂ニ及ビ一帯ニ北ニ面シ傾斜平均三〇度内外、海拔高一〇〇―二〇〇米、山麓ハ縣道ニ接シ耕地ヲ距ル約一釐。

地質及土壤
 植栽面積
 植栽年数
 一ヘクタール當付
 現存
 種苗ノ産地
 施肥ノ種類及時期
 施肥ノ分量及方法
 生育狀況
 手入保護及間伐ノ狀況

兵庫

縣

地質及土壤
 地形及海拔
 地質及土壤
 植栽面積
 植栽年数

第三紀層、砂質壤土、深サ中
 庸、稍乾燥シ、粗鬆ニシテ地
 味不良。
 四・七七ヘクタール。

昭和四年。

四五〇〇本（黒松四、五〇〇
 本ト混植）。

四・二〇〇本。

多可郡日野村。

稻藁、芝張付ノ時、過燐酸石
 灰、苗木植付後。

苗木一本ニ付稻藁一〇〇瓦、過燐酸石灰ハ六〇瓦ヲ施用、稻藁ハ芝張付ノ時裏込土中ニ伏込ミ過
 燐酸石灰ハ植栽後其周圍ニ施ス。
 生育良好ニシテ黒松ヲ壓ス、平均直径三・〇釐、高サ平均二・八米一株ヨリ二乃至三本萌芽シ鬱閉
 工事ノ翌年修繕チナスト共ニ一割五分ノ補植チナス。



昭和八年五月撮影

印南郡志方村西中字面向山。
 本ヶ所ハ山麓部ヨリ山腹ニ及ビ海拔高八〇米乃至一二〇米ノ所テ、平均二〇度内外ノ傾斜チ以テ
 東ニ面スル、耕地ニ接ス。
 基岩花崗岩、砂質壤土ニシテ稍深ク深度中、結合度及地味共ニ中庸。
 一・三五ヘクタール。
 大正十一年。

一ヘクタール當付
 一ヘクタール當
 現存
 種苗ノ産地
 施肥ノ種類及時期
 施肥ノ分量及方法
 生育狀況
 手入保護及間伐ノ狀況
 主伐及間伐木利用狀況

鳥取

縣

地質及土壤
 地形及海拔
 地質及土壤
 植栽面積
 植栽年数
 一ヘクタール當付

四・三〇〇本（外ニ黒松四、三
 〇〇本ト混植）。

三・〇〇〇本。

滋賀縣甲賀郡。

稻藁、苗木植栽後。

苗木一本ニ付約九三瓦ヲ根元
 ニ置ク。

生育良好ニシテ黒松ヲ壓スル
 狀況、平均直径六・七釐平均高
 五・五米一株ヨリ三乃至五本
 萌芽シ鬱閉。

工事ノ翌年修繕チナスト共ニ
 苗木一割補植、昭和五年一部間伐チナシ一株二本ヲ殘ス、其結果黒松ノ生育チ助長シタ。
 間伐材ハ薪材トシタ。

岩美郡日後村字網代坂通。

北方ニ面シ傾斜三〇度、海拔高一五〇米。

基岩花崗岩、土壤ハ砂土ニシテ深サ中、濕度潤、結合度軟。

〇・三〇ヘクタール。

大正十一年。

五・〇〇〇本。



昭和八年五月撮影

現一(ヘクタール)當
種 苗 在 本 本 地 數
種 肥 ノ 種 類 及 時 期
施 肥 ノ 分 量 及 方 法
生 育 狀 況
手 入 保 護 及 間 伐 ノ 狀 況
主 伐 及 間 伐 木 利 用 狀 況

島 根 縣

種 現 植 植 植 地 地 植 種
苗 在 一(ヘクタール)當 一(ヘクタール)當 一(ヘクタール)當 質 形 栽 栽 栽 栽 栽
ノ 本 本 年 面 個 個 個 個 個
產 地 數 數 度 積 壤 高 所 根

三、〇〇〇本。
東伯郡矢野村。
稻藁及藁灰、十一月月上旬。
苗木一本ニ付稻藁五五瓦及藁五五瓦ヲ左
トナシテ植付ト同時ニ施シタ。
直徑平均六釐、高サ四・二米、鬱閉密。
掃除伐實行中。
伐採木ハ薪材トシテ利用。



昭和八年五月撮影
島根縣岩美郡田後村

現一(ヘクタール)當
種 苗 在 本 本 地 數
種 肥 ノ 種 類 及 時 期
施 肥 ノ 分 量 及 方 法
生 育 狀 況
手 入 保 護 及 間 伐 ノ 狀 況

廣 島 縣

種 現 植 植 植 地 地 植 種
苗 在 一(ヘクタール)當 一(ヘクタール)當 一(ヘクタール)當 質 形 栽 栽 栽 栽 栽
ノ 本 本 年 面 個 個 個 個 個
產 地 數 數 度 積 壤 高 所 島

加茂郡寺西村宇郡宮山國有林
17いノ内。
海拔高四一〇米、傾斜
二五度、西北ニ面シ風
當リ強イ。
基岩、花崗岩ニシテ諸所ニ露出セル所ガアル、土壤ハ花崗岩ノ風化生成セルモノデ、深サ一五
二〇釐、結合度弱ク稍々乾燥セル所デアアル。施工後地味漸次肥沃トナリツ、アル。
二、〇〇〇ヘクタール。
大正十四年三月。
二、二五〇本(外ニ「ヒメヤシヤアシ」一、八〇〇本「ニセアカシア」三〇〇本ト混植)。
一、九〇〇本。
神戸、京都督林署ニテ採取。



昭和八年五月撮影
島根縣廣島郡古志村

過燐酸石灰、基肥植付當時。追肥ハ三月又ハ四月施用。
施肥量一株六〇瓦トセルモ、以前ニ於テハ其分量不明又生育良好ナルモノニハ施用セズ。施肥法
ハ株間ニ溝ヲ掘リ十年生以上ノモノハ株ヨリ四〇―五〇釐上方ニ掘リタル半圓形ノ溝ニ施シタ。
追肥ハ普通隔年置ニ施シ生育良好ナルハ三年目ニ行フ事ガアツタ。

生育狀況
手入保護及間伐ノ狀況
主伐及間拔木利用狀況

山口縣

植栽個所
地形及海拔高
地質及土壤
植栽面積
植栽年度
植栽本數
現存本數
種苗ノ產地
施肥ノ種類及時期
施肥ノ分量及方法
生育狀況

徳島縣

生育良好ニシテ直徑平均五・二、樹高平均五・一米、鬱閉密。
昭和六年八月鬱閉密ナル部分ニ對シ弱度ノ除伐ヲ行ヒ、天然生赤松又ハ植栽セル黒松ニ支障トナル枝條ヲ除去シタ。
主ニ新材、木炭トシテハ歩止リ生重量ノ二〇％内外、炭質ハ色澤堅硬良好ナル。
吉敷郡秋穂二島村宇東大河内。
海拔高一〇〇米、北ニ面シ傾斜二五度、本縣中央海岸ニ近キ箇所ニシテ雨量比較的多イ所。
花崗岩、土壤ハ砂土ニシテ淺ク結合度鬆潤度潤。
二・四三ヘクタール。
大正十年。
二、七三〇本(本ヶ所ハ外ニ山櫻及松トノ混植地)。
二、三八〇本。
本縣。
菜種油粕、木灰及稻藁、植栽ト同時(三月上旬)。
苗木一本ニ付菜種油粕三七瓦木灰約一〇瓦ヲ混和シ苗木ノ後方一〇釐内外ノ所ニ淺キ穴ヲ掘リテ埋メ、尙葉ハ約〇・二庇宛苗木ノ根元ニ撒布シ乾燥ヲ防グト共ニ肥料トシテ施シタ。
生育良好ニシテ直徑一〇・六、樹高七・三米ニ達シ鬱閉密。

植栽個所
地形及海拔高
地質及土壤
植栽面積
植栽年度
植栽本數
現存本數
種苗ノ產地
施肥ノ種類及時期
施肥ノ分量及方法
生育狀況
手入保護及間伐ノ狀況
主伐及間拔木利用狀況

愛媛縣

植栽個所
地形及海拔高

板野郡御所村宮川内字見坂。
海拔二八〇米乃至三五〇米概シテ東面、傾斜三〇―四〇度ノ急峻地。
中生代和泉砂岩層ニ屬シ、砂質又ハ礫質壤土ナル、深度中結合度軟、濕度潤。
一・四〇ヘクタール。
大正十年。
六、〇〇〇本(「ヤシヤアシ」ヒメヤシヤアシ)ノ混植地ア外ニ少シク松チモ混ジテ居ル)。
二、三四〇本(僅カ黒松混ズルモ生育ノ見込カナイ)。
滋賀縣。
木灰、豆粕、植栽ト同時(三月下旬)。
苗木一本ニ付木灰三五瓦及粉碎シタル豆粕一五瓦ヲ混和シ更ニ土壤ニ混ジテ植栽ノ時施シタ。
「ヤシヤアシ」平均直徑八・一、樹高七・六米、「ヒメヤシヤアシ」平均直徑六・七、樹高五・七米、鬱閉密。
大正十三年春季枝打チナシ、昭和三年春季三三％ノ間伐チ行ツタ。
薪材トシテ利用。
越智郡櫻井町醫王山國有林36いノ内。
本ヶ所ハ瀨戸内海ニ面セル海岸松林ニシテ北東向傾斜一五度、海拔高一二〇米ノ丘陵林ナル。

地質及土壤
 植栽面積
 植栽年度
 植栽本數
 一ヘクタール當
 現存
 種苗ノ產地
 施肥ノ種類及時期
 施肥ノ分量及方法
 生育狀況
 主伐及間伐木利用狀況

母岩ハ花崗岩、土壤ハ砂質壤土ニシテ結合度軟ク地味醇惡ナル。
 二・九六ヘクタール。
 昭和四年。
 五、九〇〇本(外ニ「ハゲシバリ」及黒松ト混植ス)。
 五、一〇〇本。
 越智郡櫻井町大宮段宮ヶ崎苗圃。
 木灰、米糠、基肥ハ春季植付ノ時、追肥ハ翌春。
 基肥ハ春季三月植付ノ時一本當リ木灰五〇瓦米糠五〇瓦ヲ植穴ニ入レ土壤ト良ク攪キ混セ然ル後苗木ヲ植付ケ、又追肥ハ翌春四月一本當米糠四〇瓦乃至四五瓦ヲ植栽木ノ山手ノ根元ヲ耕耘シ良ク土壤ト混シテ施シタ。第一回追肥昭和六年四月、第二回追肥昭和七年四月。
 生育良好ニシテ現在樹高大ナルハ二・五米小ナルモ一・二米根元直徑大六〇釐小二五釐ニ達シ鬱閉適度。
 (本ヶ所ニテハ未ダ利用セサルモ附近ノ既往造林地ニ於ケル間伐木ハ薪材トシテ地元民ニ高値ニ處分サレタ。)

縣

高知
 植栽面積
 地形及海拔
 地質及土壤

幡多郡下川口村大字宗呂字山ノ神。
 溪流ニ沿ヒ東ニ面シテ三五度ノ傾斜ヲナシテ居ル、海拔高五〇米、(大正九年ノ崩壊地)。
 地質ハ中世代ニ屬シ、基岩ハ頁岩及砂岩ニシテ礫質土壌デアル。
 〇・九二ヘクタール。

福岡

植栽年度
 植栽本數
 一ヘクタール當
 現存
 種苗ノ產地
 施肥ノ種類及時期
 施肥ノ分量及方法
 生育狀況
 地形及海拔
 地質及土壤
 植栽面積
 植栽年度
 植栽本數
 一ヘクタール當
 現存

昭和元年。
 三、八〇〇本(本箇所ハ外ニ「ヤマハン」ノキ黒松等ノ混植地ヲ總計ハ、六〇〇本植デアル)。
 三、五〇〇(前記混植樹ト共ニ六、五〇〇本)。
 滋賀縣甲賀郡岩根村。
 胸高直徑九釐、樹高七・五米、鬱閉密(混植セシ黒松ハ被壓サレテ約七割枯死シタ)。
 八女郡矢部村北矢部櫻鶴。
 縦鶴川右岸ニシテ傾斜三〇度乃至四〇度ヲ以テ東ニ面スル、海拔高六六〇米。
 安山岩、輝石安山岩及其集塊岩ヨリ成ル礫質壤土。
 〇・三五ヘクタール。
 大正十三年。
 九、〇〇〇本。
 二、一〇〇本。



昭和八年五月撮影

種 苗 ノ 産 地
 施 肥 ノ 種 類 及 時 期
 施 肥 ノ 分 量 及 方 法
 生 育 状 況
 手 入 保 護 及 間 伐 ノ 状 況

熊 本 縣

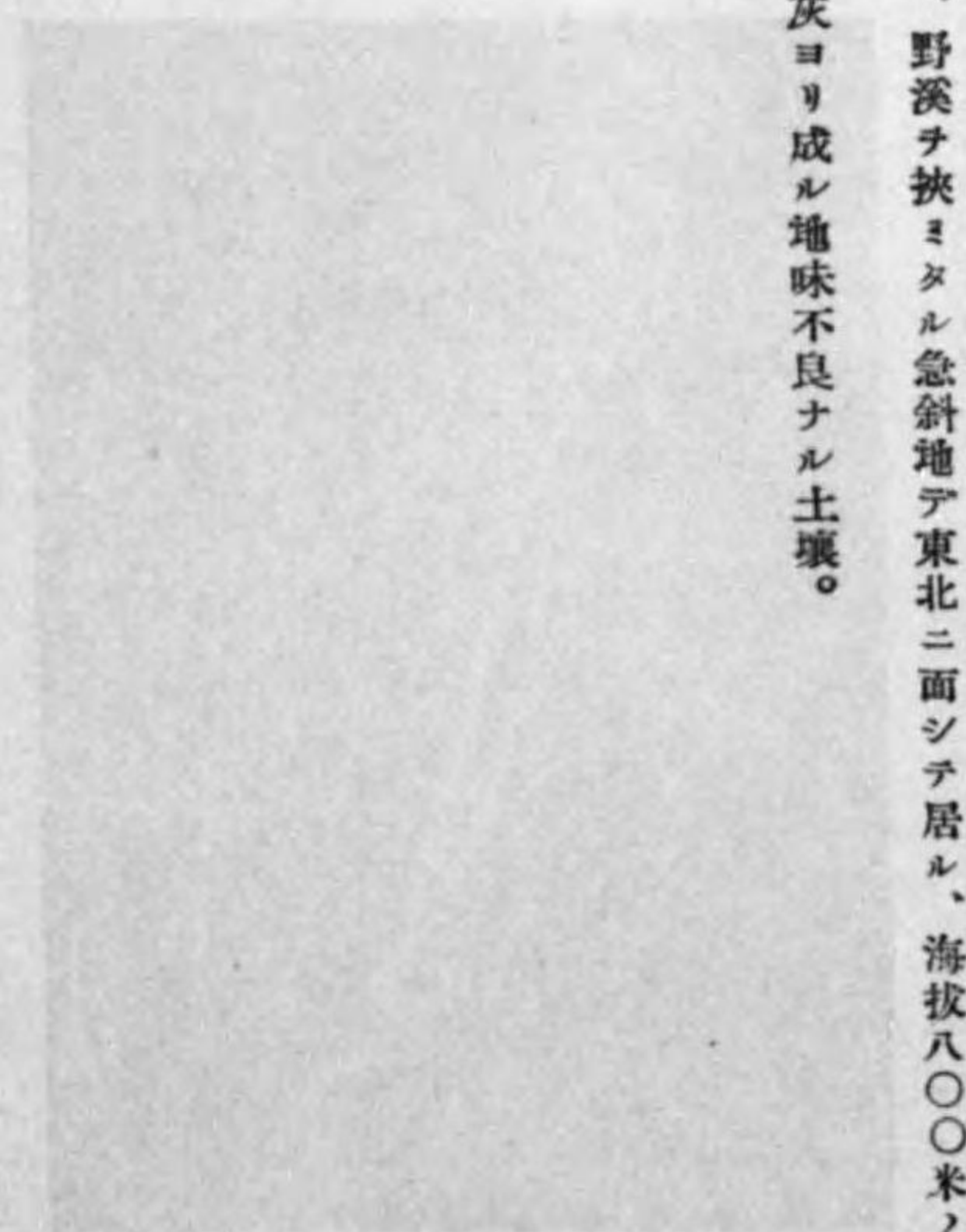
滋賀縣。
 胸高直徑九種、高サ七・二米、
 鬱閉密。
 植栽後六年目除伐チ行ヒタル
 ノミ。



昭和八年一月撮影

植 栽 個 所
 地 形 及 海 拔 高 所
 地 質 及 土 壤
 植 栽 面 積
 植 栽 年 度
 一 植 栽 年 度
 一 植 栽 年 度
 現 在 本 本 年 年
 種 苗 ノ 産 地 數 數 度 度
 施 肥 ノ 種 類 及 時 期
 施 肥 ノ 分 量 及 方 法

阿蘇郡坂梨村大字坂梨字姥ヶ
 懐。阿蘇五岳中高嶽ノ中腹部ニ位シ、野溪ヲ挟ミタル急斜地テ東北ニ面シテ居ル、海拔八〇〇米ノ個
 所。基岩、輝石安山岩、上層ハ火山灰ヨリ成ル地味不良ナル土壤。
 〇・二六ヘクタール。
 昭和二年三月。
 七、八〇〇本。
 六、四八五本。
 滋賀縣甲賀郡。



昭和八年一月撮影

大 分 縣

生 育 状 況
 手 入 保 護 及 間 伐 ノ 状 況
 植 栽 個 所
 地 形 及 海 拔 高 所
 地 質 及 土 壤
 植 栽 面 積
 植 栽 年 度
 一 植 栽 年 度
 一 植 栽 年 度
 現 在 本 本 年 年
 種 苗 ノ 産 地 數 數 度 度
 施 肥 ノ 種 類 及 時 期
 施 肥 ノ 分 量 及 方 法
 生 育 状 況

生育良好ニシテ根元直徑一三・三種、高サ平均
 五・〇米ニ達シ崩壊地タルノ舊狀ヲ認メザル
 迄ニ繁茂シテ居ル。施業地ノ周圍ニ防火線ヲ設置シテ野火ノ害ヲ
 豫防シ又看守人ヲ配置シテ盜伐其他保護ノ任
 ニ當ラシメテ居ル。

縣

日田郡大山村大字西大山、字作道。
 筑後川ノ支流赤石川ノ左岸ヲ通過スル縣道ヲ
 隔テ、東面セル地域テ、海拔三〇〇米ノ地點
 ニ位シ、傾斜三〇度乃至四〇度ノ急峻地テア
 ル。基岩ハ輝石安山岩及ビ其集塊岩ヨリ成ル。土
 層ハ三層層ニ屬シ深サ〇・九米乃至九・〇米ニ
 及ビ涵メテ不規則ノ狀態ニアル。
 一・二ヘクタール。

大正十三年。
 四、四二一本(外ニ同數ノ赤松ヲ混植ス)。
 四、一九〇本。
 滋賀縣甲賀郡。



昭和八年五月撮影
 熊本縣阿蘇郡坂梨

平均直徑九種、平均樹高九米、鬱閉密。

二 成績不良ナル個所

千葉県

安房郡保田町大字本郷。

本ヶ所ハ東ヨリ西ニ向ツテ流ル、保田川ノ南北支流ニアル山林内ニ介在スル崩壊地テ、傾斜三五度乃至四〇度ノ急斜面ナル。海拔一六〇米内外。

第三紀層ニ屬シ基岩ハ軟弱ナル頁岩、土質ハ粘質壤土ニシテ風化土層淺薄ナル。

一、六八ヘクタール。

昭和三年。

五、五〇〇本。

一、一〇〇本。

滋賀縣。

藥、植栽前。

植栽前階段ノ一部ヲ掘リ一米ニ付藥一疋ヲ埋込ミ根肥トシタ。

發育不良ニシテ活着歩合モ悪シク散生スルノミ。

神奈川県

津久井郡青根村字穴窪澤。

植栽個所

地形及海拔高

地質及土壤

植栽面積

植栽年度

一ヘクタール當

一ヘクタール當

現在本數

種苗ノ產地

施肥ノ種類及時期

施肥ノ分量及方法

生育狀況

植栽個所

地形及海拔高

地質及土壤

植栽面積

植栽年度

一ヘクタール當

一ヘクタール當

現在本數

種苗ノ產地

施肥ノ種類及時期

施肥ノ分量及方法

生育狀況

神奈川県

中郡西秦野村大字堀山下字一ノ澤。

西ニ面シ傾斜三五度―五〇度ノ急峻地ニシテ海拔高九〇〇米―一、二〇〇米ノ高地ナル。

第三紀層火山灰土、土壤ハ粘質壤土ニシテ土層深ク比較的水分ニ富ンテ居ル。

一、〇〇ヘクタール。

昭和三年。

一ヘクタール當
 現一ヘクタール當
 在 本 本
 種 苗 之 産 地 數
 施 肥 ノ 種 類 及 時 期
 施 肥 ノ 分 量 及 方 法
 生 育 狀 況
 手 入 保 護 及 間 伐 ノ 狀 況
 本 ヶ 所 ハ 土 層 深 ク 加 フ ル ニ 高 山 地 帯 ナ ル ガ 故 ニ、 霜 柱 ノ タ メ 苗 木 埋 沒 等 ニ ヨ リ 發 育 チ 阻 害 セ ラ レ タ ル モ ノ ノ 如 ク デ ア ル。
 直徑三種。樹高二・一五米、鬱閉粗。
 昭和四年一回補植チ行ツタ。

山梨縣

植 栽 個 所
 地 形 及 海 拔 高
 地 質 及 土 壤
 植 栽 面 積
 植 栽 年 度
 一ヘクタール當
 一ヘクタール當
 現 在 本 本
 數 數
 東八代郡田野村字兩澤。
 東北ニ面シ傾斜四一度、山麓ニシテ下部澤ニ接ス、海拔高八〇〇米、附近ニ耕地ナシ。
 地質ハ石英閃綠岩ニシテ風化甚シク土壤ハ礫質壤土テ粗粒、濕度乾。
 〇・三二ヘクタール。
 昭和三年四月。
 一〇、〇〇〇本(ひめやしやぶしト混植地テ其割當二ト一ノ比テアル)。
 四、〇〇〇本。

種 苗 ノ 産 地
 施 肥 ノ 種 類 及 時 期
 施 肥 ノ 分 量 及 方 法
 生 育 狀 況
 滋賀縣。
 過磷酸石灰、春季植付當時。
 苗木植付ト同時ニ一本宛五〇瓦施ス、其方法ハ植栽畝ニテ十分掘起シ之ニ能ク肥料ヲ混入シテ後苗木ヲ植ユ。
 活着歩合四〇%、平均根元徑一・六釐平均高〇・九八米鬱閉度疎。

山梨縣

植 栽 個 所
 地 形 及 海 拔 高
 地 質 及 土 壤
 植 栽 面 積
 植 栽 年 度
 一ヘクタール當
 一ヘクタール當
 現 在 本 本
 種 苗 ノ 産 地 數
 施 肥 ノ 種 類 及 時 期
 施 肥 ノ 分 量 及 方 法
 生 育 狀 況
 東山梨郡初鹿野村字燒山水晶澤。
 西ニ面スル山嶺ニシテ傾斜三八度乃至四二度ノ急峻地、海拔高一、二〇〇米ノ高地、附近ニ耕地ナシ。
 石英閃綠岩ニシテ土壤ハ砂質壤土粘着力ニ乏シク、濕度乾。
 〇・三〇ヘクタール。
 大正九年四月。
 九、〇〇〇本。
 一、一七〇本。
 愛知縣。
 活着歩合山嶺一九%、下部六〇%ニシテ平均根元直徑五・七釐、高サ平均一・九二米。鬱閉疎。

静岡県

濱名郡白須賀町大字白スカ字宿北。

海拔高六〇米内外テ西南ニ面シ傾斜三五度乃至四〇度ノ急斜地。

第四紀古層ニ屬シ、砂質土ニシテ輕鬆、乾燥度強イ。

一、〇〇ヘクタール。

大正十年。

三、〇〇〇本(松二本ニ對シ本樹一本ノ割合ニ混植セル所)。

二、二〇〇本。

滋賀縣。

地質及海拔
地形及海拔
植栽面積
植栽年度
一(ヘクタール)當付
一(ヘクタール)當付
現(ヘクタール)當付
種苗ノ產地
施肥ノ種類及時期
施肥ノ分量及方法
生育狀況

生長不良テ直徑平均三・〇、樹高平均一・二米、鬱閉疎。

愛知縣

東春日井郡坂下町大字廻間字高森。

概シテ南ニ面シ傾斜一五度内外、山頂ヨリ山麓ニ五ツテ居ル、海拔高一〇〇米。

地質及海拔
地形及海拔
植栽面積
植栽年度
一(ヘクタール)當付
一(ヘクタール)當付
現(ヘクタール)當付
種苗ノ產地
施肥ノ種類及時期
施肥ノ分量及方法
生育狀況

地質及土壤

植栽面積

植栽年度

一(ヘクタール)當付

一(ヘクタール)當付

現(ヘクタール)當付

種苗ノ產地

施肥ノ種類及時期

施肥ノ分量及方法

生育狀況

手入保護及間伐ノ狀況

第三紀新層、砂礫土深度淺ク、結合度堅、濕度乾。

一、〇〇〇ヘクタール。

明治三十七、八、九年度。

三、〇〇〇本(筋工一米當一本ノ割合)

無シ

滋賀縣甲賀郡。

稻葉、藁灰及鶏糞、植栽ノ時。

植栽ニ際シ基肥トシテ稻葉筋工一米約二沓、藁灰苗木一本ニ付八〇瓦、鶏糞同七五當施用、追肥シタルモ分量不明。

生育不良ニシテ漸次枯死シ現在皆無ノ狀態、黒松モ成育不良ニシテ成林ノ見込カナイ。

植付ノ方法其他、筋工階段幅〇・六米ニシテ階段前端ニ薄株及萩苗ヲ混植シ、水平階段外角ヨリ二〇度ヲ退キ斜ニ植付ケ、後部ニ連束藁ヲ埋メ込ミ中間ニ黒松及本樹ヲ一米宛各一・五ヲ植エタ、而シテ本ヶ所ハ日露戰役當時極度ノ財政緊縮ノ爲メ施肥ノ如キモ節約セラレタルモノノ如ク、前記ノ施肥量モ記録ノ儘記載シタルモノデ實際其量ヲ施シタルヤ疑問トスル所デアアル。

愛知縣

愛知郡長久手村大字能張字福井。

西北向傾斜二〇度山頂部、海拔高一五〇米。

地質及海拔
地形及海拔
植栽面積
植栽年度
一(ヘクタール)當付
一(ヘクタール)當付
現(ヘクタール)當付
種苗ノ產地
施肥ノ種類及時期
施肥ノ分量及方法
生育狀況

地質及土壤

植栽面積

植栽年数

一ヘクタール當

一ヘクタール當

現在

種苗ノ産地

施肥ノ種類及時期

施肥ノ分量及方法

生育状況

手入保護及間伐ノ状況

植付方法

滋賀

地質及土壤

植栽面積

地質及土壤

第三紀新層、砂礫土、深度淺ク、結合度堅、湿度乾。

六〇〇ヘクタール。

大正五年。

三、〇〇〇本(筋工一米ニ付一本ノ割)。

六〇〇本。

滋賀縣甲賀郡。

稻藁、糞灰及鶏糞、植栽ノ時。

植栽ノ際筋工一米ニ付稻藁約二疋、糞灰苗木一本ニ付八〇瓦、鶏糞七五瓦當施用ス、大正七年春季鶏糞一本當七五瓦追肥ス。

平均直徑(地上)一〇〇釐、平均樹高一・四米、成育不良ニシテ漸次枯死ノ傾向ガアリ未ダ鬱閉セズ、尙黒松モ生育不良デアアル。

階段幅〇・米トシ前縁ニ薄株及萩苗ヲ混植シ其方ニ藁ヲ敷込ミ施肥ノ上一米ニ付黒松一本、やしやぶし一本ノ割ニ植栽スル、やしやぶしハ植栽ニ當テ摘技斷根ヲナス。

一〇、〇〇〇本(外ニ黒松五、〇〇〇本ト混植ス)。

縣

甲賀郡大原村大字神宇廣小場。

工事施行前ハ四〇度以上ノ急斜崩壊地デアツタガ法切施工シ現在ハ三五度ノ傾斜ヲ以テ南面セル所デアアル、海拔高七〇〇米、耕地ヲ距ル二・五軒ノ所。

基岩花崗岩、表土ハ極メテ淺キ砂質礫土、乾燥地。

植栽面積

植栽年数

一ヘクタール當

一ヘクタール當

現在

種苗ノ産地

施肥ノ種類及時期

施肥ノ分量及方法

生育状況

滋賀

地質及土壤

地形及海拔

地質及土壤

植栽面積

植栽年数

一ヘクタール當

一ヘクタール當

現在

種苗ノ産地

施肥ノ種類及時期

施肥ノ分量及方法

生育状況

滋賀

地質及土壤

地形及海拔

地質及土壤

植栽面積

植栽年数

一ヘクタール當

一ヘクタール當

一〇、〇〇〇本(外ニ黒松五、〇〇〇本ト混植ス)。

六、五〇〇本。

甲賀郡岩根村。

草木灰、植栽ノ時。

苗木一本ニ付三七・五瓦宛チ砂ト混シ植付ノ時基肥トシテ施用シタ。

生育不良テ三割五分ハ枯損シ現存スル「ヤシヤアシ」ハ萌芽二―三本、根元直徑一・八釐高〇・八米ニ過ギマ。

縣

滋賀郡小松村大字鶴川字鶴川。

傾斜三〇度内外ヲ以テ南面セル所テ海拔高二四〇米、耕地ヲ距ルコト一・二軒。

基岩花崗岩、表土砂土ニシテ淺ク乾燥スル、基岩點々露出シテ居ル。

〇・四〇ヘクタール。

大正五年三月。

一五、〇〇〇本(山楡トノ混植ナルモ各別ノ數不明)。

二、五〇〇本。

種 苗 ノ 産 地
施 肥 ノ 種 類 及 時 期
施 肥 ノ 分 量 及 方 法
生 育 状 況

兵 庫 縣

甲賀郡三雲村。
草木灰、植付ノ時。
苗木一本ニ付三七・五瓦宛砂ト混シ植付ノ時基肥トシテ施用シタ。
生育極メテ不良テ枯損セルモノ甚多ク、現在僅カ一五%鬱閉スルニ至ラズ、萌芽四―五本アルモ
根元直徑二釐、高サ一・五米ニ過ギナイ。

植 栽 個 所

加西郡下里村坂本字猪尾。

地 形 及 海 拔 高

本ヶ所ハ禿地數ヶ所ニ施工シ山麓ヨリ山頂ニ及ビ一般ニ北面スル傾斜三〇度内外ノ所、海拔高
一〇〇―二〇〇米、約〇・五軒ノ所ニ耕地ガアル。

地 質 及 土 壤

第三紀層、砂質壤土ニシテ土層一般ニ淺ク乾燥ス、粗鬆ニシテ地味不良。

植 栽 面 積

一・三四ヘクタール。

植 栽 年 度

大正十年。

一ヘクタール當

四、〇〇〇本(外ニ黒松四、〇〇〇本ト混植)。

現 在 本 數

一〇〇本。

種 苗 ノ 産 地

滋賀縣甲賀郡。

施 肥 ノ 種 類 及 時 期

苗木一本ニ付稻藁九三五瓦施用シ植栽後根元ニ敷ク。

施 肥 ノ 分 量 及 方 法

活着歩合甚ダ惡シク亦生育モ不良テ直徑平均四・五釐高サ平均二・七米、鬱閉疎。

生 育 状 況

手入保護及間伐ノ狀況

工事翌年修繕ヲナスト共ニ苗木一割五分ヲ補植。

鳥 取 縣

植 栽 個 所

岩美郡田後村字天峰。

地 形 及 海 拔 高

東北ニ面シ傾斜三五度海拔高二〇〇米。

地 質 及 土 壤

基岩花崗岩、砂土、深度淺ク、濕度ハ乾、粘合度輕鬆。

植 栽 面 積

〇・三六ヘクタール。

植 栽 年 度

大正十二年。

一ヘクタール當

五、〇〇〇本。

現 在 本 數

四、〇〇〇本。

種 苗 ノ 産 地

東伯郡矢野村。

施 肥 ノ 種 類 及 時 期

稻藁及藁灰、十一月上旬。

施 肥 ノ 分 量 及 方 法

苗木一本ニ付稻藁五五瓦及藁五五瓦ヲ灰トシテ苗木植付ト同時ニ施ス。

生 育 状 況

平均直徑一・五釐、高サ一・五米ニ過ギズ、鬱閉至ツテ疎。

廣 島 縣

植 栽 個 所

賀茂郡寺西村大字寺家字板橋。

地形及海拔高
地質及土壤
植栽面積
植栽年度
植栽本數
現存本數

德島縣

地形及海拔高
地質及土壤
植栽面積
植栽年度
現存本數

南及西南ニ面シ平均傾斜一七度ノ緩斜地海拔高二七〇米一部分耕地ニ接スル。
基岩花崗岩、土壤ハ其ノ風化ニヨル細土層ヲ存シ赤褐色、心土ニハ細砂最も多イ。結合力强ク乾燥シ易イ。
〇・三〇ヘクタール。
昭和二年。
四、三〇〇本(外ニ「ヒメヤシヤアシ」二、七〇〇本ト混植)。
三、四〇〇株。
滋賀縣甲賀郡。
過燻酸石灰、植栽ノ時及翌年。
基肥ハ植付ノ時苗木一本ニ付〇・〇五疋内外ヲ其周圍ニ溝ヲ掘リ投入シテ被土シ、又追肥ハ翌年發芽前ニ〇・一〇疋内外ヲ施シタ。
平均胸高直徑三・三厘米高サ三・六米テ餘リ良好テナイ、鬱閉疎。
明治四十四年。

三好郡養間町大字養間字前山。
海拔高三九〇米乃至四一〇米、概シテ南方ニ面シ傾斜三〇乃至四〇度ノ急峻地。
中生代和泉砂岩層ニ屬シ、礫質又ハ砂質壤土ニシテ結合カハ稍弱イ、深度淺ク湿度乾。
〇・九〇ヘクタール。
明治四十四年。

大分縣

地形及海拔高
地質及土壤
植栽面積
植栽年度
植栽本數
現存本數

日田郡高瀬村大字高瀬字今屋敷。
筑後川支流高瀬川ノ右岸ニ流出スル小溪ノ兩岸ニ跨リ海拔四〇〇米内外ノ地點ニ位シ、傾斜三〇度乃至四五度ノ急峻地。
基岩ハ輝石安山岩ヨリ成リ、諸所ニ露出シテ居ル、土層ハ粘質ニ富メル三層層ヨリ成リ深サ〇・三米乃至三・〇米ニ達スル。
〇・八三ヘクタール。
大正十三年。
三、七五八本(外ニ同數ノ赤松ト混植)。
三、一九四本。

施肥ノ種類及時期
施肥ノ分量及方法

生育 狀況

平均直徑七・六釐、平均樹高七・〇米、鬱閉疎。

此樹ハひめやしやぶしト共ニ砂防植栽トシテ用キラル、幾多ノ長所ガアルガ今其長所ヲ記述スレバ次ノ通。

- 一、ひめやしやぶしニ比シ養苗稍容易ナル。
- 二、稍喬木性ニシテひめやしやぶしヨリ長大ナル生長ヲナス。
- 三、根ノ發育旺盛ニシテ深く土中ニ侵入シ基岩トノ連絡ヲ安全ナラシメル。
- 四、幾分用材的價値ヲ有スル。
- 五、山出後モ病蟲害比較的少ナイ。

尙ホ砂防植栽ノ效果比較及下木植栽ノ效果等ニツキテハ前編ヲ参照セラレタイ。

此樹ノ養成並ニ砂防植栽地ニツキ廣島縣西條營林署ニ於テ、ひめやしやぶしト共ニ簡單ナル肥料試驗ヲ行ツタガ、同地方ニ於テハ大體次ノ如キ結論ガ得ラル、様デアル。(大正十三年四月植付ノモノニ付大正十四、十五二年間ノ生長狀況ヲ調査發表セルモノ)。

- 一、やしやぶしノ幹長最モ長キハ過磷酸施用區ニシテ中和完全區之ニ次ギ、其他ハ無肥料區ヨリモ却ツテ劣レルヲ見ル。
- 二、枝條數最モ多キハ中和完全區ニシテ過磷酸區之ニ次ギ、硫安施用區モ亦無肥料區ニ優リ、石灰施業區ハ影響無ク加里施用區ハ却ツテ枝條數ヲ減ズル。

三、根長ハ施肥ニヨリ何レモ増加シ就中過磷酸硫安ノ施用ハ著シク其伸長ヲ促進ス。

四、根瘤數ハ加里及石灰ノ施用ニヨリ著シク其生長ヲ妨ゲラル、モ、過磷酸ノ施用ニヨリ激増スルヲ見ル、而モ根瘤ノ大小並ニ其數ノ多少ハ成長ニ著シキ影響アルヲ見タ。

因ニ中和完全區ニ於テ根瘤數最モ多キモ小粒ニシテ、過磷酸區ハ前者ニ比シ少數ナルモ大粒デアル。

五、風乾幹根重量ハ中和完全區ヨリモ却ツテ過磷酸施用區最モ重大ニシテ成長促進上效果偉大ナルヲ知ル。

六、要スルニやしやぶしノ成長促進ヲ計ル爲メ施用スル肥料中最も經濟的ニシテ效果偉大ナルハ過磷酸デアル。

尙砂防植栽ノ現地試驗ノ結果ニ就テハ前編ひめやしやぶしノ部ヲ参照セラレタイ。

一般造林トシテ靜岡縣南伊豆地方一帯ニ行ハル、やしやぶし薪炭林業ハ特殊ノモノトシテ知ラル、ヲ以テ其要點ヲ記述シテ置ク。(之ノ地方ニハおほばやしやぶし多ク兩種混生シテ居ル)。

本作業ノ行ハル、區域ハ賀茂郡岩科村ヲ中心トシテ中川村、仁科村、南上村、三濱村等ニ亘リ駿河灣ニ面シ、地勢一般ニ急斜地多ク見込面積約五千町歩ニ達シテ居ル、從來やしやぶしノ造林ハ無立木地又ハ伐採跡地等ニ對シ一齊ニ行ハレタルガ、近年天然生ノ雜木ノ間ニ混植スルモノ遂次増加ノ傾向ガアル、是レ害蟲獸ノ被害蔓延ヲ防ギ且ツ造林木ノ生長ヲ促進セシムル上ニ效果アルガ爲デアル。

此地方ニ於テハ苗木ハ自ら養成シテ一回床替二年生ヲ山出トスルモ、活着比較的的不良ニシテ加フルニ極端ナル陽樹ナルヲ以テ雜草木ノ被壓ヲ受ケ枯死スルモノガ多イ、ヨツテ努メテ峯通リノ瘠惡地ニ造林シツ、アルガ却ツテ生育良好ニシテ且ツ土地ヲ肥沃ナラシムル結果ヲ招來シテ居ル。造林上最も恐ルベキハ天牛ノ被害ナルガ故之ニ依ル枯損ヲ見込ミ一町當歩五千五百本内外ノ密植ヲ行ツテ居ル。野兔ノ害ヲ受クルコト殆ンド無キモ、天牛ノ被害ノ爲メ成林スルハ四割乃至五割ノ程度デアル。

植栽ノ年ニハ約一尺(三〇・三種)ノ生長ヲナシ其後年々三尺(〇・九一米)内外伸長シ、植栽後五、六年ニシテ次第ニ上長生長衰へ十一二年ニハ胸高直徑三寸(九・一種)樹高三十尺(九・一米)ニ達スル、而シテ伐期ハ生長狀況ニヨリテ異ナルモ八年乃至十二年ニシテ中庸ナル林相ヲ呈スル、十二年生ノモノハ一町歩當蓄積三六五石(一〇一立方米)デアル。

第六 利用狀況

材ハ淡赭黑色ニシテ通常淡褐色ノ縞及白色ノ小斑點ヲ有シ、材質硬重ニシテ鉤削スレバ木理美シクナル。而シテ氣乾比重〇・六四、一立方尺ノ重量氣乾材ハ四・七五貫テ一平方寸ノ負擔力千十六貫デアル。

材ハ鑛作用ニ供シ(劣等品)樹皮ノ剥ギタル圓材ノ外面奇雅ナルガ爲メ床柱トシテ實用セラル、事アルモ、大部分ハ薪炭材ニ供セラレテ居ル。靜岡縣南伊豆地方ニ於ケルやしやぶし薪炭林ニ就テ見ルニ其炭質ハ雜木中最モ良好ニシテ且ツ製炭容易ナルガ爲メ當業者ハ最モ稱揚シテ居ル。

葉ハ水田ノ肥料トシ又之ヲ以テ牛馬ヲ飼フ時ハ肌肥エカヲ増スト稱セラレテ居ル。毬果ハ附子又ハ夜叉附子ト稱シ五倍子代用トシテ染料ニ供シ、滋賀縣下岩根村ニテハ種子ヲトリタル殼ヲ染料トシ販賣シ副收入ヲアゲテ居ル、又古クヨリ婦人ノ齒ヲ染ムルニ用キラレ、尙ホ新製陶器ニ古色ヲ帶バシムルニハ此液中ニ浸スト云フ事デアル。

昭和八年十二月九日印刷
昭和八年十二月十二日發行

農林省山林局

東京市京橋區京橋二丁目十三番地

印刷所 東亞印刷株式會社

東京市京橋區京橋二丁目十三番地

印刷者 佐々木恒太郎

終